

平成30年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業  
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)

# 四国発信！ ダイバーシティ研究環境 調和推進プロジェクト広報誌

## 1部 事業概要

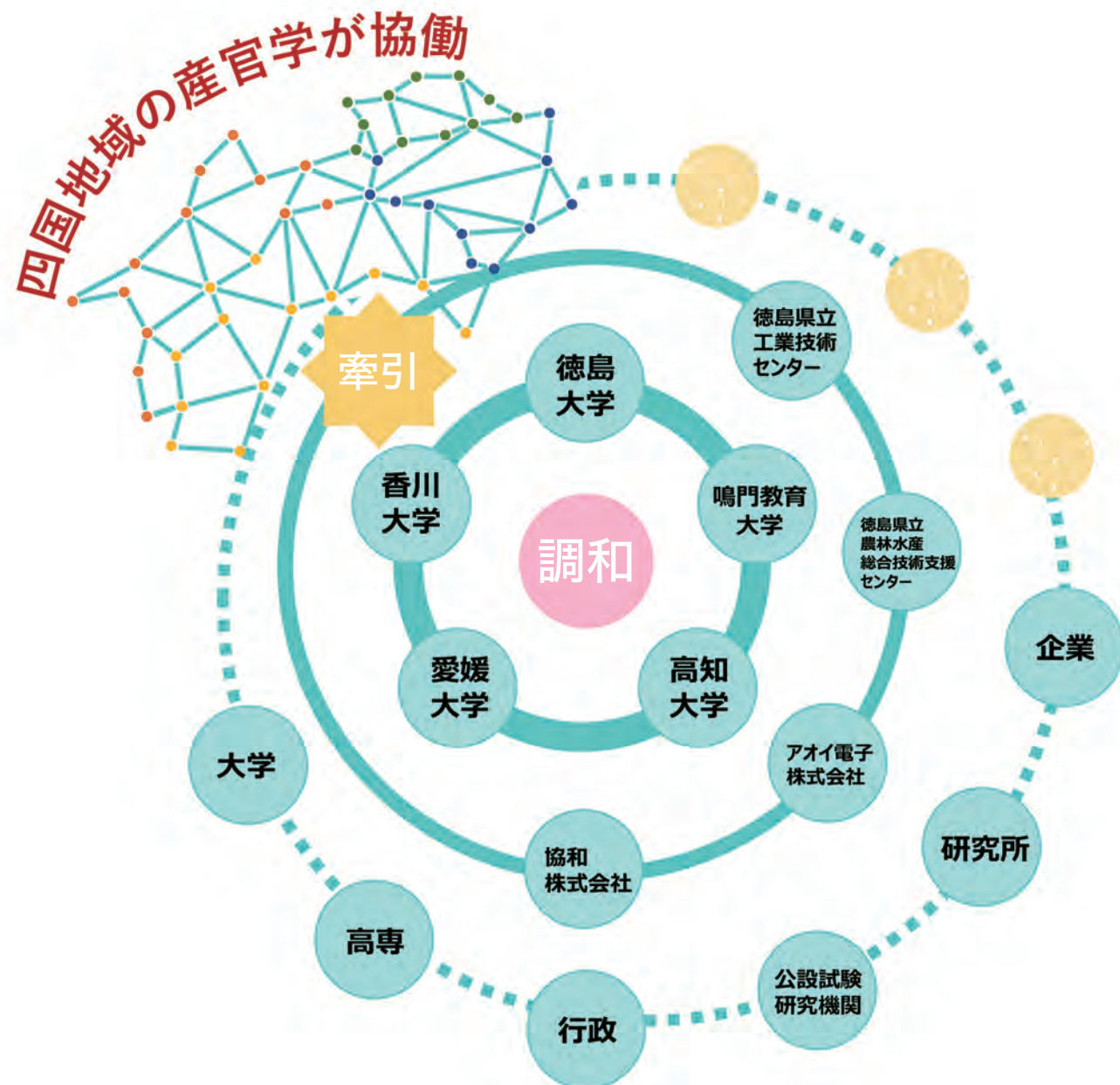
## 2部 共同研究プロジェクト 女性代表研究者 ロールモデル



四国ダイバーシティ推進委員会

四国発信！

# ダイバーシティ研究環境調和推進プロジェクト



**1 部** 四国発信！  
ダイバーシティ研究環境調和推進  
プロジェクト 事業概要  
1-23

**2 部** 四国×ダイバーシティ推進  
共同研究プロジェクト  
女性代表研究者ロールモデル  
24-55

56 編集後記

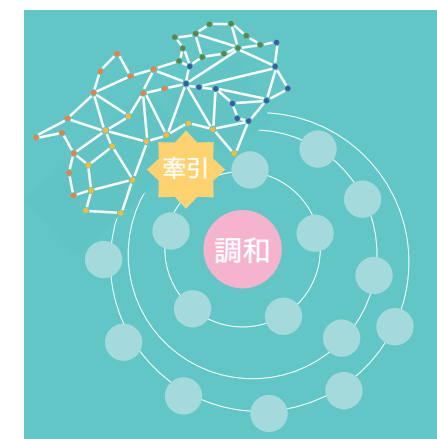
57 四国ダイバーシティ推進委員会リスト  
[連携9機関]

## 1 部 四国発信！ダイバーシティ研究環境 調和推進プロジェクト事業概要

- 2 トップメッセージ  
四国発信！ダイバーシティ研究環境調和推進プロジェクト  
統括責任者 代表機関 徳島大学長 / 野地澄晴
- 3 四国ダイバーシティ推進委員会委員長  
代表機関 徳島大学副学長 / 佐藤 誠
- 4 四国ダイバーシティ推進委員会 取組概要
- 6 四国ダイバーシティ推進委員会 取組と成果

### 四国ダイバーシティ推進委員会 連携9機関と取組

- 10 国立大学法人徳島大学
- 12 国立大学法人香川大学
- 14 国立大学法人愛媛大学
- 16 国立大学法人高知大学
- 18 国立大学法人鳴門教育大学
- 20 徳島県立工業技術センター
- 21 徳島県立農林水産総合技術支援センター
- 22 アオイ電子株式会社
- 23 協和株式会社





ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）  
四国発信！ダイバーシティ研究環境調和推進プロジェクト

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）  
四国発信！ダイバーシティ研究環境調和推進プロジェクト  
総括責任者 代表機関 徳島大学長



## “女性の視点” に立った活動を推進し 多様な個性と能力を 発揮できる社会に

全国的に少子高齢化が問題となるなか、男女が互いに人権と人格を尊重し、誰もが個性と能力を発揮できる環境形成が急務となっています。本学では2009年の「徳島大学男女共同参画宣言」以来、男女共同参画推進本部の設置やAWAサポートセンターの開設など、先進的な取組を数多く行ってきました。そして、2018年度には文部科学省平成30年度科学技術人材育成費補助事業であるダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）に、本学が代表機関となる『四国発信！ダイバーシティ研究環境調和推進プロジェクト』が採択。産学官9機関が協働し、それぞれの強みを生かして四国地域の女性研究者の活躍促進に関する取組を推進しています。

本プロジェクトの目標は、ダイバーシティ推進共同研究制度やダイバーシティ推進研究交流発表会などにより「地域創成イノベーションシーズの形成」、上位職・管理職登用を筆頭とする「ハイ・ポテンシャル人材育成」、育児・介護などからの復帰・復職支援に代表される「研究と生活の調和」の3つです。いずれも女性研究者の量的拡大と質的向上には欠かすことのできないものですが、そこで重要なのは、真に女性の視点に立っているかどうかだと考えています。性別に関わらず能力のある人が挑戦し、成果によって正しく評価される環境をつくっていかねばなりません。

本学では、SDGsが掲げる5番目、8番目、10番目の目標達成も目指しており、ダイバーシティの実現に全学で取り組んでいます。大切なのは、大所高所の観点を忘れず、一歩ずつでも着実に実現していくこと。多様な個性を力に変え、誰もが個性と能力を発揮できる環境をつくっていきましょう。

四国ダイバーシティ推進委員会委員長  
代表機関 徳島大学副学長

佐藤 誠  
SATO Makoto



## 若手研究者たちの活躍の場を広げる “四国発”の取組を進めていく

『四国発信！ダイバーシティ研究環境調和推進プロジェクト』連携9機関のリーダーから構成される四国ダイバーシティ推進委員会は、2018年11月に設置されました。その目的は、地方創生の鍵となる女性研究者をはじめとする若手研究者たちが力を十分に発揮するための“ダイバーシティ研究環境の実現と調和”です。また、2015年3月に設置された「四国女性研究者活躍推進ネットワーク会議」は、現在、四国4県教育研究機関、行政機関及び企業等、32機関が参画。それぞれの組織が有する情報の共有はもちろん、連携・交流を積極的に図ることにより、四国地域全体で女性研究者の活躍を中心に活動してきました。

スタートから3年目を迎えて感じるのは、当初の想像以上に効果が出てきたことです。たとえば「ダイバーシティ推進研究交流発表会・情報交換会」による成果もその一つ。異分野間研究交流は、互いに刺激を受けるだけでなく、そこから新たなネットワークが構築され、共同研究の実施へと発展しています。この3年で採択された「ダイバーシティ推進共同研究制度」による新規研究は58件、継続は22件です。クラウドファンディングへの挑戦も見られるなど、若手研究者たちの意欲が今まで以上に高まりつつある証明だといえるでしょう。

また、2020年には本学学生の発案から理工系次世代女性研究者チーム「J-SWEET」が創設。高校生に身近なロールモデルの誕生は、まだまだ男性が多数を占める理工系分野における女性研究者の裾野拡大につながるアクションとして、大い

に注目と期待を集めています。

ダイバーシティという概念についての理解が進むにつれ、少しずつ足りない部分も明らかになってきました。今後は組織間の連携を深めつつ四国発の取組を行い、女性研究者をはじめとする若手研究者たちが活躍できるフィールドを広げていきたいと考えています。

四国ダイバーシティ推進委員会

- ・国立大学法人徳島大学
- ・国立大学法人香川大学
- ・国立大学法人愛媛大学
- ・国立大学法人高知大学
- ・国立大学法人鳴門教育大学
- ・徳島県立工業技術センター
- ・徳島県立農林水産総合技術支援センター
- ・アオイ電子株式会社
- ・協和株式会社



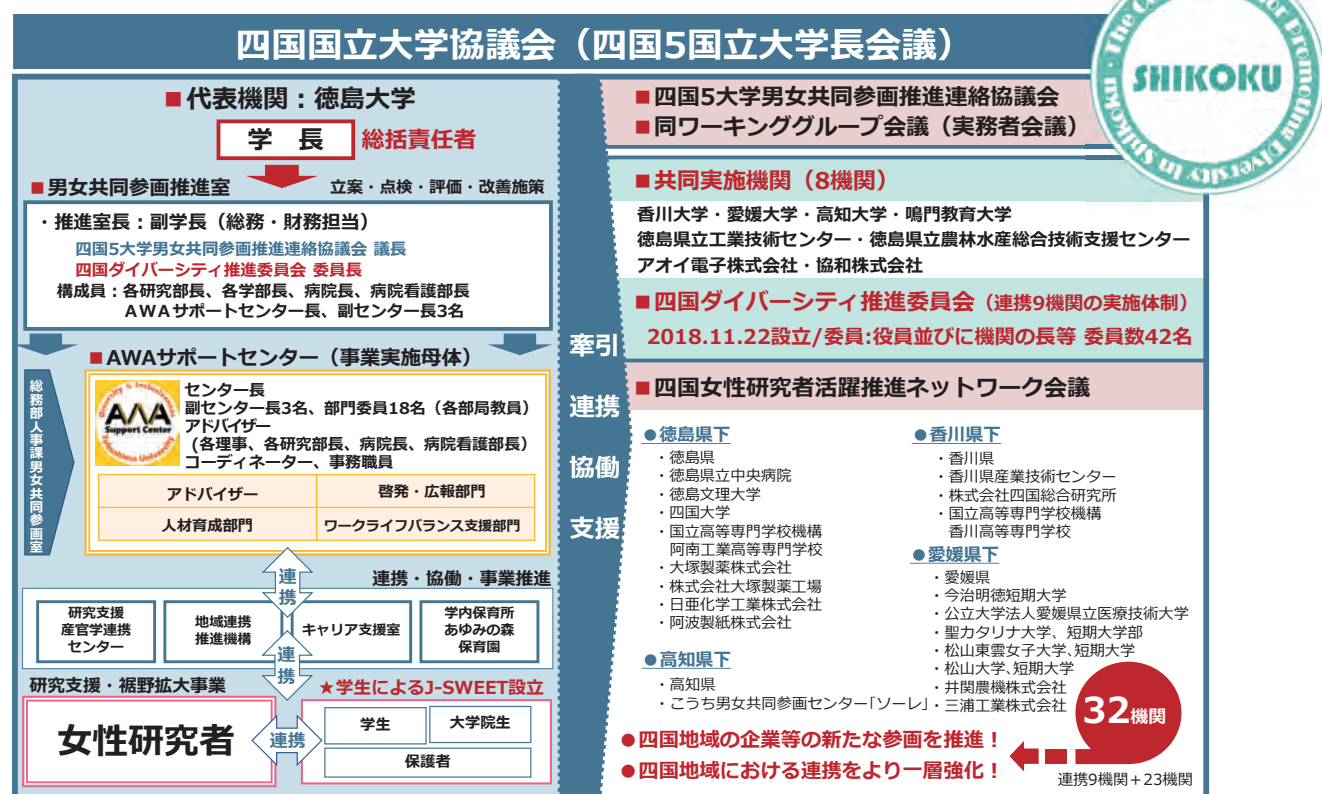
地方創生の鍵となる女性研究者をはじめ若手研究者が、持てる力を十分に発揮できるダイバーシティ研究環境の実現と調和を目指して、2018年11月22日に「四国ダイバーシティ推進委員会」（2020.4.1 現在：委員数 42 名）を設置しました。同委員会の委員は、ダイバーシティ推進に関わる代表者、実施責任者、職員で構成され、本事業に関する重要課題について協議するとともに、地域全体におけるダイバーシティ研究環境実現を目的に活動しています。

# 四国ダイバーシティ推進委員会 取組概要

- 平成30年度 科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」に  
「四国発信！ダイバーシティ研究環境調和推進プロジェクト」が採択されました。  
実施期間：2018年度～2023年度 代表機関：徳島大学  
共同実施機関：香川大学、愛媛大学、高知大学、鳴門教育大学、徳島県立工業技術センター、  
徳島県立農林水産総合技術支援センター、アオイ電子株式会社、協和株式会社

本事業は、徳島大学を代表機関とし、四国5国立大学並びに2公設試験研究機関及び2 企業の産官学9機関が連携して、四国地域の問題・課題解決につながる研究から世界の人々への貢献に発展する研究を目指し、女性研究者や若手研究者の挑戦の場を広げるとともに女性研究者の裾野拡大や若手研究者の育成、研究者のライフイベント及びワーク・ライフ・バランスに配慮して女性研究者のマンパワーを質的に増加させ、総合的なキャリアマネジメントに向けて事業を展開しています。事業実施母体として設置した「四国ダイバーシティ推進委員会」において、連携9機関が共同で行う事業の円滑な推進のため、同委員会及びメール会議を開催し、事業に関する重要課題について計画、実施、評価、改善、承認を行いながら効率的かつ効果的に本事業を推進しています。また、各連携機関が主体となって実施する事業（各機関の取組掲載）は、推進委員会開催時に進捗・成果・課題の報告を行い、好事例の展開や取組の改善を図り、より効果的な事業展開を図っています。さらに、これまで構築してきた行政や企業等32機関による「四国女性研究者活躍推進ネットワーク機関」との連携体制を活かし、[図1] に示す実施体制を核として連携を広げ、[表1] の目標と行動計画の達成に向けた事業実施による成果と事業の実効性や効率性、有用性を検証しながら取り組んでいます。

## ■ [図1]ダイバーシティ研究環境調和推進プロジェクト実施体制

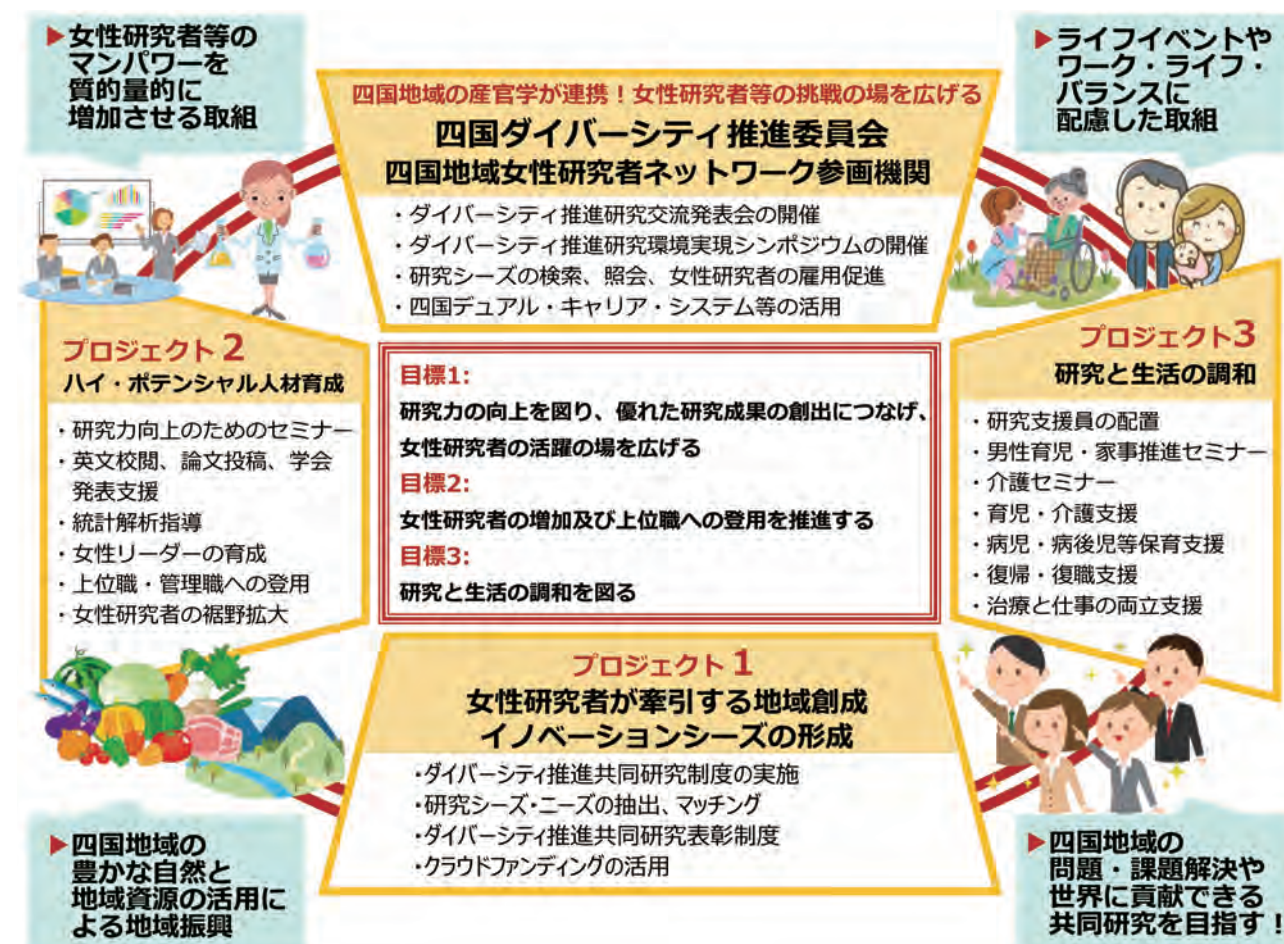


## ■ [表1]目標と行動計画

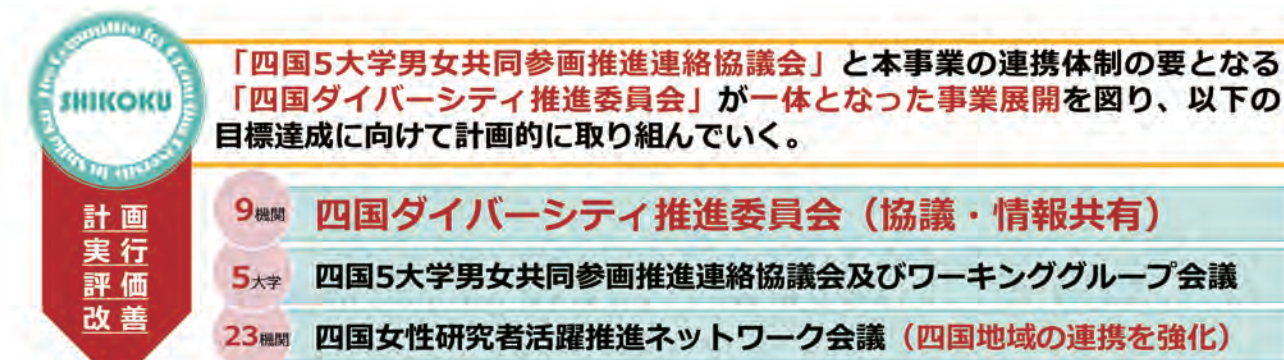
### ■ 3つの目標と行動計画

- 目標1** 研究力の向上を図り、優れた研究成果の創出につなげ、女性研究者の活躍の場を広げる  
**プロジェクト1** 女性研究者が牽引する地域創成イノベーションシーズの形成
- 目標2** 女性研究者の増加及び上位職への登用を推進する  
**プロジェクト2** ハイ・ポテンシャル人材育成
- 目標3** 研究と生活の調和を図る  
**プロジェクト3** 研究と生活の調和

## ■ 目標達成に向けたプロジェクト概要



## ■ 今後の進め方（連携体制と取組継続・発展）



| 項目      | 目指す指標（2023年度）                                   | 取組                                                                                                                            |
|---------|-------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 在職比率    | 連携機関全体で 女性比率 <b>22%</b> を目指す                    | 目標を早期に達成できるよう計画的に取り組み、さらには<br>・次期 第6期科学技術・イノベーション基本計画<br>・第5次男女共同参画基本計画<br>・女性活躍推進法に基づく「一般事業主行動計画」等の目標達成に向けて連携機関全体で事業を推進していく。 |
| 採用比率    | 連携機関全体で 女性比率 <b>39%</b> を目指す                    |                                                                                                                               |
| 上位職在職比率 | 連携機関全体で 女性比率 <b>15%</b> を目指す                    |                                                                                                                               |
| 共同研究推進  | 研究の活性化、女性の研究力向上、創造性豊かな若手研究の育成、女性の挑戦・活躍の場の拡大を目指す |                                                                                                                               |
| 裾野の拡大   | 未来の理工農系の女性研究者の増加・育成による地域産業を発展させる人材の確保を目指す       |                                                                                                                               |

### 目標

大学と公設試験研究機関並びに企業が協働した研究人材育成モデル事業をネットワーク機関や地域に広げ牽引し、地方におけるダイバーシティ研究環境実現のモデル地域を目指す！

# 四国ダイバーシティ推進委員会 取組と成果

## ■ 四国ダイバーシティ推進委員会が主催して実施した取組と成果

プロジェクト1 女性研究者が牽引する地域創成イノベーションシーズの形成

プロジェクト2 ハイ・ポテンシャル人材育成

プロジェクト3 研究と生活の調和



### ① ダイバーシティ推進研究交流発表会・情報交換会

- 目的**
- 連携機関の産官学研究者の異分野間研究交流により、研究ネットワークの構築を推進
  - 研究ニーズの調査と共同研究のマッチングの実施
  - 研究力の向上や若手研究者の育成の場、挑戦・活躍の場の拡大

**2018年度**

【日時】2019年2月15日(金)・16日(土)  
【場所】グランドエクシブ鳴門ザ・ロッジ  
【参加者数】15日／42名、16日／48名

- 共同研究発表／ショットガンプレゼンテーション
- キャリア形成支援セミナー ● 女性リーダー育成セミナー
- クラウドファンディングセミナー

・アンケート結果／共同研究発表・研究紹介発表は有意義だった。

95%



**2019年度**

【日時】2020年1月24日(金)・25日(土)  
【場所】グランドエクシブ鳴門ザ・ロッジ  
【参加者数】24日／45名、25日／49名

- 共同研究発表／ショットガンプレゼンテーション
- 女性リーダー育成セミナー
- 研究ニーズ・シーズのマッチング研究交流会
- クラウドファンディングセミナー

・アンケート結果／共同研究発表・研究紹介発表は有意義だった。

97%



### ② 四国発信！ダイバーシティ研究環境調和推進プロジェクトシンポジウム

- 目的**
- 本事業の目的や成果について理解を深めるため、広く学内外に向けた広報による意識啓発を推進
  - 女性研究者の挑戦力を高め、地域の未来を牽引する研究の促進や女性研究者の量的拡大と質的向上を図る
  - ダイバーシティ研究環境の実現と調和を図り、地方におけるダイバーシティ推進モデルとなることを目指す

**2018年度**

【日時】2019年1月22日(火)  
【会場】藤井節郎記念ホール(徳島大学)  
【参加者数】188名

ワークでもライフでも、輝く瞬間を  
男女がともにシェアする社会へ

男性の育児・家事推進セミナー

・アンケート結果／今後に役立つ内容のシンポジウムだった。

92%



**2020年度**

【日時】2020年9月18日(金)  
【会場】藤井節郎記念ホール(徳島大学)  
【参加者数】162名

女性研究者が輝くStrong Network

女性リーダー育成セミナー／キャリア形成支援セミナー

- ・COVID-19感染拡大対策のため無観客YouTubeライブ配信
- ・北海道から九州までの全国25機関から参加(視聴回数513回)

・アンケート結果／今後に役立つ内容のシンポジウムだった。

94%



## ■ 連携9機関の取組と成果

**目標 1** 研究力の向上を図り、優れた研究成果の創出につなげ、女性研究者の活躍の場を広げる

### ① ダイバーシティ推進共同研究制度（実績）

#### ● ダイバーシティ推進共同研究制度趣旨

連携機関の女性研究代表者と女性共同研究者が取り組む共同研究の公募を毎年実施し、四国ダイバーシティ推進委員会で審査・承認の上、助成を行っています。本制度は、女性研究者のリサーチマインドを高め、地域や社会の問題・課題解決につながる優れた研究成果の持続的創出を図ることを目的とします。

| 研究代表者所属機関          | 2018 | 2019 |    | 2020 |    | 合計 |    |
|--------------------|------|------|----|------|----|----|----|
|                    | 新規   | 新規   | 継続 | 新規   | 継続 | 新規 | 継続 |
| 徳島大学               | 5    | 2    | 5  | 2    | 7  | 9  | 12 |
| 香川大学               | 4    | 7    | －  | 8    | －  | 19 | －  |
| 愛媛大学               | 1    | 3    | 1  | 1    | 4  | 5  | 5  |
| 高知大学               | 1    | 3    | 1  | 1    | 4  | 5  | 5  |
| 鳴門教育大学             | 1    | 3    | －  | 3    | －  | 7  | －  |
| 徳島県立工業技術センター       | 1    | 3    | －  | 2    | －  | 6  | －  |
| 徳島県立農林水産総合技術支援センター | 1    | 3    | －  | 3    | －  | 7  | －  |
| 合 計                | 14   | 24   | 7  | 20   | 15 | 58 | 22 |

2018～2020年度(3年間)

新規

採択数 **58** 件

成果

継続

採択数 **22** 件

### ② ダイバーシティ推進共同研究表彰制度の実施(2020年度創設)

#### ● ダイバーシティ推進共同研究表彰制度実施要項

##### 1. 趣旨・目的

ダイバーシティ推進共同研究制度を利用し、四国地域全体の女性研究者の研究力強化に特に貢献した女性研究者を顕彰し、優れた研究成果の持続的創出と女性研究者のさらなる活躍を図ることを目的として表彰する。

##### 2. 表彰制度実施期間

2020 年度から 2023 年度（牽引型事業終了年度）までの間、毎年度表彰する。

受賞者は各年度、各機関から 1 名以内とし、表彰状を授与する。

##### 3. 対象者

2018 年度以降にダイバーシティ推進共同研究制度に採択された研究課題の研究代表者を対象とする。

また表彰年度に新規採択された課題に限らず、初年度まで遡り過去の採択課題も対象とする。

**表彰式**／各機関の補助事業担当部署において実施する。

※表彰者は、総括責任者(2023 年度まで)である徳島大学学長とする。

**成果のアウトリーチ**／受賞者の所属・職・氏名・研究課題名等と合わせ、表彰式での様子をダイバーシティ推進ポータルサイトにおいて公開する。受賞者は、受賞対象となった共同研究課題に関する研究概要記事を作成し、ホームページに掲載することで広く社会に発信する。



徳島大学表彰式 2021年2月4日(木)



#### ● 2020 年度ダイバーシティ推進共同研究表彰制度 受賞者一覧

| 機関名                | 所属等名                      | 職 名   | 氏 名   | 採択課題名                                          |
|--------------------|---------------------------|-------|-------|------------------------------------------------|
| 徳島大学               | 大学院医歯薬学研究部 薬科学部門 生物有機化学分野 | 講師    | 田良島典子 | 医薬応用を目指した「ゲム編集技術」の確立ー四国 5 大学から広がる女性研究者のネットワークー |
| 香川大学               | 医学部 病理病態・生体防御医学講座         | 教授    | 松田陽子  | 肝癌の病理診断の施設間の診断一致率および正診率の向上を目指した取り組み            |
| 愛媛大学               | 大学院理工学研究科 応用化学物質生命工学専攻    | 助教    | 吉村 彩  | 酸化還元活性な有機配位子を有する MOF の創成と二次電池電極物質への展開          |
| 高知大学               | 教育研究部 医療学系 基礎医学部門         | 助教    | 都留英美  | コンプレキシンによる抗体分泌制御が全身性エリテマトーデスの病態進行抑制に果たす役割      |
| 鳴門教育大学             | 大学院学校教育研究科                | 教授    | 黒川衣代  | 家事に対する期待レベル、葛藤、ストレスとダウンサイジング                   |
| 徳島県立工業技術センター       | 企画総務担当                    | 課長    | 吉本亮子  | ワカメの水溶性多糖に関する研究                                |
| 徳島県立農林水産総合技術支援センター | 資源環境研究課                   | 専門研究員 | 新居美香  | 徳島県産香酸カンキツの特長を活かした新規用途開発                       |

目標 2

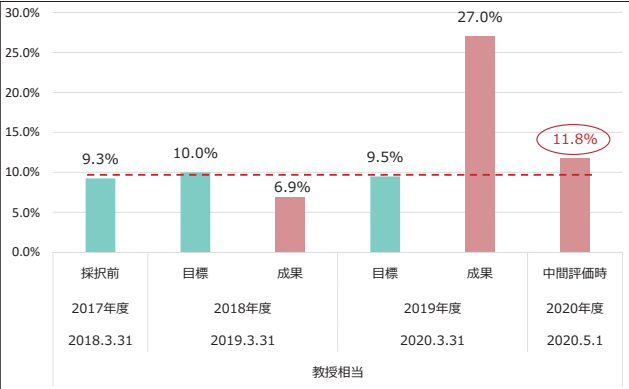
女性研究者の増加及び上位職への登用を推進する

③女性研究者の採用比率・在職比率・役員等登用比率の推移

期間：2018.3.31（2017年度採択前）～ 2020.5.1（中間評価時点）

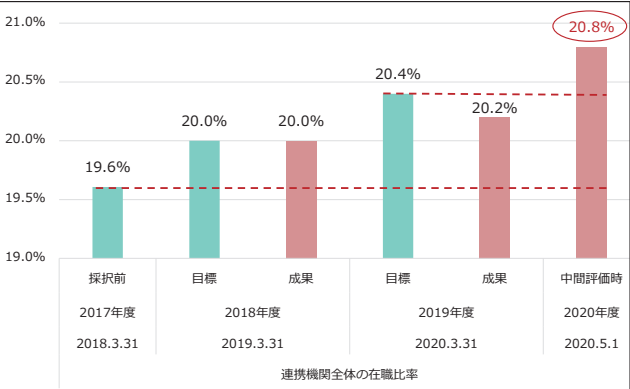
(1) 連携機関全体の女性研究者 教授採用比率

中間評価時の教授採用比率 11.8%は、採択前より 2.5pt 増加しており、2019 年度目標値を 2.3pt 上回っています。



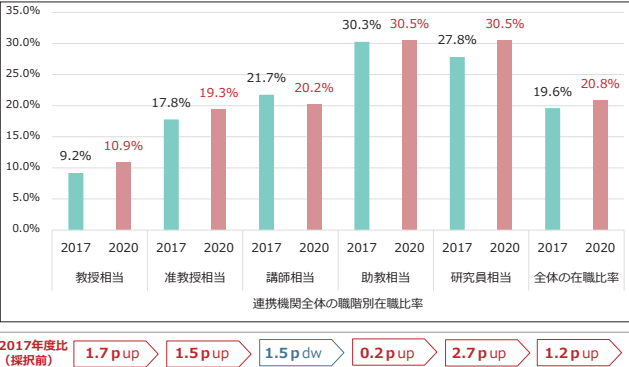
(2) 連携機関全体の女性研究者 全体の在職比率

中間評価時の全体の在職比率 20.8%は、採択前から 1.2pt 増加しており、2019 年度目標値を 0.4 pt 上回っています。



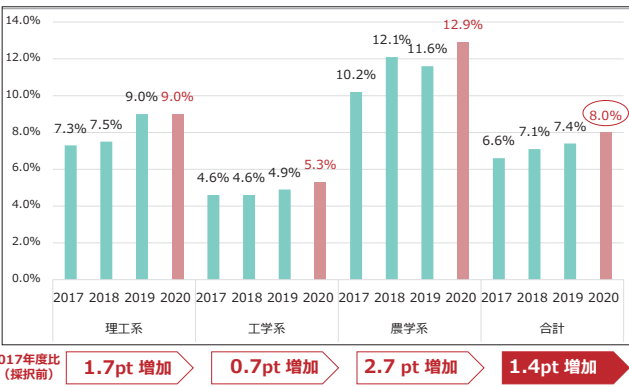
(3) 連携機関全体の女性研究者 職階別在職比率

中間評価時の職階別在職比率は、講師相当以外、採択前よりすべての職階で増加しています。



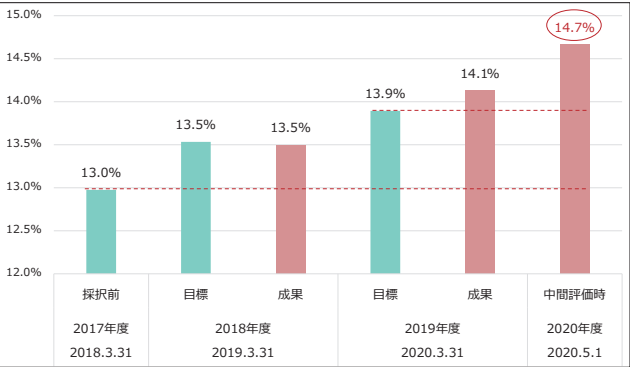
(5) 連携機関全体の女性研究者 理工系・工学系・農学系在職比率

中間評価時の理工系・工学系・農学系在職比率は、すべて増加傾向にあり、理工系全体では、採択前から1.4pt増加しています。



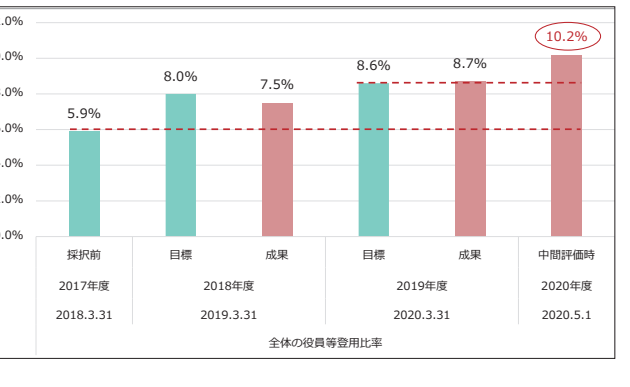
(4) 連携機関全体の女性研究者 教授・准教授在職比率

中間評価時の教授・准教授在職比率 14.7%は、採択前から 1.7pt 増加し、2019 年度目標値を 0.8pt 上回っています。



(6) 連携機関全体の女性研究者 役員等登用比率

中間評価時の役員等登用比率 10.2%は、採択前から4.3pt 増加し、2019年度目標値を1.6pt 上回っています。



成果

増加と登用の推進

採択前から中間評価時における女性研究者の採用比率（教授）・在職比率・役員等登用比率はすべて増加しています。

④女性研究者上位職登用への取組成果

| 機関名          | 働きかけや取組内容と成果                                                                                                                                                                                 |
|--------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 徳島大学         | 徳島大学AWA(OUR)サポートシステム女性研究者プロジェクト(上位職登用):2013年度から実施<br>2018年度の募集(2019年度登用)から教授への登用も可とした。<br>・准教授から教授▶2名(2018年度) 1名(2019年度)<br>・講師から准教授▶2名(2018年度) 2名(2019年度)<br>・助教から講師 ▶1名(2018年度) 1名(2019年度) |
| 香川大学         | (2020年5月1日現在)<br>理事相当2人、副学長相当1人、教育研究評議会委員3人の登用を行った。<br>2019年度：教授の女性教員採用割合は100%であった。                                                                                                          |
| 愛媛大学         | 学長リーダーシップの下、「独自財政」による「学長戦略・女性教員ポジティブ・アクション事業」:<br>女性限定採用人事を2016年度より実施し、5名の女性採用を行った。<br>・副学長・理事相当▶1名(2018年度)<br>・部局長相当 ▶1名(2018年度)・1名(2019年度)                                                 |
| 高知大学         | 学部長に女性を登用した。                                                                                                                                                                                 |
| 鳴門教育大学       | 新教育組織の専攻長3名のうち1名について女性を登用した。<br>監事の2名のうち1人は女性とした。                                                                                                                                            |
| 徳島県立工業技術センター | 本事業の実施期間において、2名の女性研究者の上位職登用が実現した。<br>主任から研究係長へ1名、上席研究員から課長へ1名を昇任した。                                                                                                                          |

成果

上位職

連携機関において、多くの女性研究者が上位職へ登用されました。

管理職

女性が副学長・理事、学部長に登用され、はじめて女性の課長が誕生しました。

目標 3

研究と生活の調和を図る

⑤ 研究と生活の調和を図るための取組成果

- 目的
- 各機関の取組による成果(効果)を検証して有用な支援策を情報共有し、各機関に拡大
  - 女性(男性)研究者にとって魅力的で活動しやすい大学・職場・地域となる取組を推進

| 四国デュアル・キャリア・システム(夫婦帯同制度)／各機関の研究環境整備 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 徳島大学                                | ●配偶者帯同雇用支援<br>徳島県外から赴任する教員採用者の配偶者等に対し、大学の求人情報を提供し、求職活動を支援することにより、女性活躍推進に資する旨の要項を制定<br>●ダイバーシティ研究支援員制度の実施<br>●治療と仕事の両立支援員制度の実施<br>●徳島大学 Kids Club（長期休暇時幼児・学童保育：春・夏・冬休み開催）<br>●病児・病後児保育及び緊急保育支援制度の実施、セミナー等に係る一時預かり保育を実施<br>●復帰・復職支援スタートアップ研究助成の実施<br>●介助支援制度の実施、介護セミナーを開催                                                   |
| 香川大学                                | ●ダイバーシティ研究支援員制度の実施<br>●キャンパスメンターミーティングの実施<br>●香大っこサポーター養成講座の実施<br>●教職員が養育する小学生の子どもを対象とする夏休み期間中のサマースクール開催<br>●保育力開拓の取組に関するアオイ電子株式会社との会議を開催 等                                                                                                                                                                               |
| 愛媛大学                                | ●Dual Career 支援制度<br>夫婦共々研究者で一方が本学教員／対象のパートナーが本学外の大学・研究所・企業等において研究活動を行っている場合、クロスアポイントメントでそのパートナーを雇い（自主経費）、一年のある一定期間、本学にて研究活動を行ってもらう制度<br>※2019年度／Dual Career 支援事業審査委員会開催（1件採択・雇用）<br>●研究者キャリア支援の充実・拡大<br>環境整備型（支援者は支援研究者の所属研究室に配置）に区分し、支援希望者のニーズにあった支援をする。また、子育て世代のため実施している学童保育への支援も充実させ、長期休暇における保育希望者が十分なサポートが得られるようにする。 |
| 各機関の研究環境整備(実施／協議／情報共有)              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 高知大学                                | ●ダイバーシティ研究支援員制度の実施<br>●両立コンシェルジュデスクの運営<br>●ライフイベントからの復職支援制度の実施<br>●ヒューマン・マネジメント講座の実施<br>●認知症サポーター養成講座の実施 等                                                                                                                                                                                                                |
| 鳴門教育大学                              | ●ダイバーシティ研究環境の充実に関連する図書の整備<br>●徳島大学介護セミナー 2019 へ出席 等                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 徳島県立工業技術センター                        | ●工業技術センターダイバーシティ推進プロジェクトチーム会議を開催<br>●徳島県立工業技術センターダイバーシティ推進セミナーの実施 等                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 徳島県立農林水産総合技術支援センター                  | ●ダイバーシティ推進部会を開催<br>(女性研究者活動や働き方セミナーについて協議)<br>●働き方改革 EXPO へ職員を派遣<br>●徳島県立工業技術センターダイバーシティ推進セミナーへ出席 等                                                                                                                                                                                                                       |
| アオイ電子株式会社                           | ●香川大学保育力開拓セミナーへ出席及び他機関への普及活動（事例）香川県内企業2社へ情報提供し参加を促した。<br>●保育力開拓の取組に関する香川大学との会議<br>●技術者及び全女性従業員の雇用環境改善に向けた意識改革への取組（事例）2018 年度に女性研究者が結婚のため東京へ移住となった際、東京支社への転勤を認め、勤務の継続が可能となった。                                                                                                                                              |
| 協和株式会社                              | ●女性研究者の上位職への積極的登用のための意識啓発研修会の開催<br>●女性研究者の共同研究実施、共同研究成果の論文投稿のために必要な支援について検討 等                                                                                                                                                                                                                                             |

成果

研究と生活の調和推進

研究と生活の調和を図ることを目的に、大学と公設試験研究機関、企業との連携の輪を広げ、四国ダイバーシティ推進委員会において情報共有しながら、各機関の実情に適切して実施した取組は、各々の機関に適切した支援制度が制定され、研究と生活の調和に向けた効率的かつ効果的な取組が推進されました。



徳島大学  
Tokushima University



葉久 真理  
HAKU Mari

代表機関 徳島大学 副理事(男女共同参画担当)、AWA サポートセンター長、  
大学院医歯薬学研究部 助産学分野 教授

略歴／1991 年から助産教育に携わり、2012 年助産教育を大学院 2 年間で教育に移行し、  
高い実践力と実践上の問題・課題解決のできる研究力のある助産師を育成している。2016 年  
から第 3 代 AWA サポートセンター長

#### ●徳島大学男女共同参画／ダイバーシティ推進のあゆみ

- 2005.9 「女性研究者の環境を考えるワーキンググループ」立ち上げ
- 2009.12 徳島大学男女共同参画宣言
- 2010.5 平成22年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業 女性研究者支援モデル育成  
「徳島大学 AWA (OUR) サポートシステム (H22-H24)」事後評価 A
- 2010.10 徳島大学 AWA サポートセンター開設
- 2011.2 四国国立 5 大学による男女共同参画推進共同宣言
- 2011.11 中国・四国地区国立大学の男女共同参画推進のための共同宣言
- 2014.4 第 73 回四国国立大学協議会  
各大学において『女性研究者の管理職登用行動計画』策定を決定  
徳島大学「女性研究者の管理職登用行動計画」の策定 (H26.10.27)
- 2014.10 平成26年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業  
女性研究者研究活動支援事業 (連携型)  
「四国 5 大学連携による女性研究者活躍推進コンソーシアム形成事業  
(H26-H28)」代表機関：徳島大学 共同実施機関：香川大学、愛媛大学、  
高知大学 連携機関等：鳴門教育大学 事後評価 A
- 2014.12 徳島県地域医療介護総合確保基金事業 女性医療従事者支援事業  
(申請年度：H26、H27、H28)
- 2017.10 文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課 男女共同参画推進のための学び・  
キャリア形成支援事業「A 女性の学びを通じた社会参画のための保育環境整備と  
キャリア形成支援の一体的な取組推進に係る実証的な調査 (H29)」 「B：女性の  
学び支援のための研究協議会の開催 (H29)」
- 2018.11 平成30年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業  
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ (牽引型)  
「四国発信！ダイバーシティ研究環境調和推進プロジェクト (H30-R5)」

●徳島大学の大学改革／ダイバーシティの活動

ダイバーシティ&インクルージョン推進と SDG s 達成

徳島大学は、多様なすべての人が  
輝ける社会と SDG s 実現に取り組んでいます。

## 家庭・職場・地域社会 という舞台で すべての研究者が 輝く未来を目指して

AWA サポートセンターは 2020 年に 10 周年を迎えました。時代とともにダイバーシティについての周知が進み、広く認知されてきた一方、誰もが活躍できる多様な研究環境の構築には、まだまだ解決すべき課題が少なくないと感じています。センター長に就任しなければ、私自身も女性研究者が置かれている立場について、そこまで詳しく知ることがなかったかもしれません。

出産や育児、介護などのライフイベントに直面したとき、女性研究者は何かを諦めざるをえないケースが多かったように思います。特に育児中の女性は“1 日を 2 回”生きているようなもの。仕事をしている 1 日と帰宅してからの 1 日。どちらかを犠牲にするのではなく、両方が同じように楽しく充実した時間であるべきです。

私たちが目指しているのは、今まで築いたキャリアを中断しない、あるいは中断した場合でもスムーズに復帰できる支援体制を整えること。そして、そのために意識を変えて行動し、より良い研究環境をつくっていくこと。性別に関わらず、一人ひとりの強みを生かしていく活動が、さらに重要視されるでしょう。

『四国発信！ダイバーシティ研究環境調和推進プロジェクト』では、女性研究者の活躍の場を広げる取組や上位職・管理職登用といったキャリア形成、ワークライフバランスの実現を主な目標に掲げています。視点や考え方、経験が異なる産学官 9 機関の協働は、そのまま多様性の表れともいえる取組です。家庭・職場・地域社会というステージで、すべての人がハーモニーを奏でられるように、新たな支援を展開すること。それこそが私たちの使命です。

### 研究者へのメッセージ

私自身、子どもたちが小さい頃には、その日暮らしで、何もかもが精一杯の日々を過ごしていましたが、周囲の理解や家族の協力もあり、ここまでやってくることができました。仕事と生活は比べるものではありません。どちらもかけがえないものだからこそ、無理をせずに頼るべきところは頼る。それが“調和”への第一歩です。互いに認め合いながら、楽しく緩やかに歩んでいきましょう。

## 徳島大学の取組

本学では、男女共同参画を全学的視点で加速推進するため、「男女共同参画推進室」を設置し、学長のリーダーシップのもと副学長が室長を務め、研究部長、学部長、病院長、看護部長、センター長、副センター長を構成員とし、重要案件を審議して本事業を推進しています。事業実施母体の AWA サポートセンターは、センター長を中心に副センター長と全学部から選出された部門委員が、啓発・広報部門、人材育成部門、ワークライフバランス支援部門の 3 部門に分かれて活動し、センターにはコーディネーター、事務職員を置き、人事課男女共同参画室と連携して以下の事業活動を推進しています。

### 目標 1 研究力の向上を図り、優れた研究成果の創出につなげ、 女性研究者の活躍の場を広げる

- 研究力伸張セミナーの開催
  - 1) 英語論文セミナー (年 2 回／2020 年度：オンライン 3 回)
  - 2) 統計セミナー (年 2 回／2020 年度：香川大学と連携オンライン各 1 回)
- 女性研究者の研究力向上に係る支援制度
  - 1) 国際学会・国内学会参加費支援 (毎年度公募・支援)
  - 2) 学術雑誌投稿論文の英文校閲費支援制度 (毎年度公募・支援)
  - 3) 国際学術雑誌論文投稿費支援制度 (毎年度公募・支援)
  - 4) 統計解析支援制度 (毎年度公募・支援)
  - 5) サバティカル活動支援員制度 (2020 年度創設)
  - 6) 顕彰制度：徳島大学女性研究者イノベーションアワード (2020 年度創設)

1) 英語論文セミナー  
女性が求めるキャリア形成を支援するため、論文の読解や執筆を中心として、英語力のブラッシュアップを図るとともに論文指導にも役立たせることを目的に開催しました。

2) 統計セミナー  
データ解析に必要な統計手法を学び、信頼される研究成果を発表して、地域・企業との共同研究の活性化と今後のキャリア形成につなげていくことを目的に開催しました。

6) 徳島大学女性研究者イノベーションアワード  
女性活躍をはじめとしたダイバーシティの推進は、多様な視点からの科学技術の発展に貢献し、新たなイノベーションの創出につながることが期待されています。そこで、科学技術イノベーション創出に係る活動の推進に多大な貢献をし、他の模範となることが期待される本学の女性研究者を顕彰します。

### 徳島大学 AWA サポートセンター

〒770-8503 徳島県徳島市蔵本町3-18-15

Tel. 088-633-7538

http://www.awasapo.tokushima-u.ac.jp/

Mail. awa@tokushima-u.ac.jp

### 目標 2 女性研究者の増加及び上位職への登用を推進する

- 女性研究者の増加及び上位職への登用
  - 1) 女性の上位職への積極的登用 (戦略的人員配置)
  - 2) 女性研究者の理系裾野拡大事業活動
    - ・日経ウーマノミクスフォーラムシンポジウムへの出席
    - ・理工系女性研究者裾野拡大セミナーの開催
    - ・医学系女性研究者裾野拡大セミナー (MD-PhD コース) の開催
- 1) 徳島大学 AWA (OUR) サポートシステム女性研究者プロジェクト (上位職登用)  
※これまでの上位職登用実績

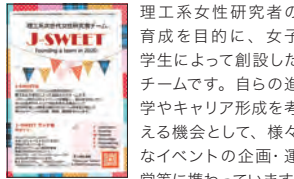
| 職階  | 登用年度 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 |
|-----|------|------|------|------|------|------|------|
| 教授  |      |      |      |      |      |      | 2    |
| 准教授 |      | 1    | 0    | 0    | 1    | 0    | 4    |
| 講師  |      | 1    | 2    | 3    | 2    | 3    | 2    |

- 2) 女性研究者の理系裾野拡大事業活動
  - ・日経ウーマノミクスフォーラムシンポジウム 2019 に出席



▲印象に残ったブース部門：3 位／17 機関  
2020 年度バーチャルシンポジウムに出展

- ・理工系次世代女性研究者チーム J-SWEET 設立 (2020 年 5 月創設)

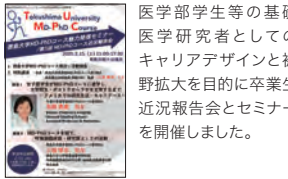


理工系女性研究者の育成を目的に、女子学生によって創設したチームです。自らの進学やキャリア形成を考える機会として、様々なイベントの企画・運営等に携わっています。



▲女子学生の進学促進を目的に女性研究者の講演と座談会を開催

- ・MD-PhD コース魅力発達セミナー (毎年 1 回開催)



医学部学生等の基礎医学研究者としてのキャリアデザインと裾野拡大を目的に卒業生近況報告会とセミナーを開催しました。

### 目標 3 研究と生活の調和を図る

- 仕事と生活の調和促進セミナー
  - 1) 男性育児・家事推進セミナー (年 1 回開催／2020 年度オンライン)
  - 2) 介護セミナー (年 1 回開催／2020 年度無観客ライブ配信)
- ライフイベントと研究／仕事の調和支援 (毎年度募集・支援)
  - 1) 研究支援員配置制度
  - 2) 復帰・復職支援スタートアップ研究助成
  - 3) 病児・病後児／緊急保育サービス制度
  - 4) 一時預かり保育
  - 5) 大学入学共通テスト試験時託児ルーム保育
  - 6) Kids Club (長期休暇時幼児・学童一時預かり保育)
  - 7) 介助支援制度
  - 8) 治療と仕事の両立支援員制度

#### 1) 男性育児・家事推進セミナー



ダイバーシティ研究環境の実現に向けて男女がともに仕事と生活の調和を図るという意識を醸成することを目的に開催しました。

#### 2) 介護セミナー



ダイバーシティ研究環境の実現に向けて介護離職を防ぐため仕事と介護を両立するための方策を学ぶことを目的に開催しました。



2018 年度冬休み 2019 年度夏休み 2019 年度冬休み 2020 年度冬休み

### 2020 年度四国ダイバーシティ推進委員

- 佐藤 誠 [副学長 (総務・財務担当) / 男女共同参画推進室長 / ダイバーシティ推進委員会 委員長]
- 葉久 真理 [副理事 (男女共同参画担当) / AWA サポートセンター長 / 大学院医歯薬学研究部助産学分野 教授]
- 中島 佳子 [AWA サポートセンター コーディネーター]
- 早瀬 喜春 [総務部人事課男女共同参画室長 / 総務部人事課 副課長]
- 森 太一 [AWA サポートセンター 専任事務職員] ●藤本 理恵子 [AWA サポートセンター 専任事務職員]

## 女性研究者の 裾野拡大を見据えた取組を

人生100年時代、全ての人に活躍の場があり、全ての人々が元気に活躍し続けられる社会、安心して暮らすことのできる社会をつくることが重要な課題となっています。一方、少子高齢化が進む中であって、女性の活躍の推進は、日本の将来の発展のためにも不可欠の取組といえます。この社会的課題を大学の教育・研究の場に反映させ、女性研究者の活躍が促進される環境を整備していくことは、大きな使命と考えます。香川大学では、このような社会の動向やニーズを踏まえ、学生・教職員が様々な性別や年齢、職階、ライフステージにおいて協力し合い、生き生きと活躍し、また、生活を大切にしていける学内の風土づくりに努め男女共同参画を積極的に推進しております。このロールモデル集に登場する女性研究者の研究や、生活と仕事の調和についての工夫を知ることにより、後に続く若手女性研究者が多くを学び、より一層その道に進進する力を得て、裾野拡大につながることを期待しています。



寛 善行  
KAKEHI Yoshiyuki

香川大学 学長

### 香川大学 男女共同参画推進室



柴田 潤子 SHIBATA Junko

香川大学 男女共同参画推進室長、香川大学法学部 教授 学長特別補佐  
略歴／京都府生まれ。上智大学法学部卒業、上智大学大学院法学研究科に進学。1997年より香川大学に着任し、1999年～2000年アレキサンダー・フォン・フンボルト給付生として現ドイツマックスプランク・インバシオンと競争研究所に留学し、2015年～2017年香川大学副学長、2010年より日本経済法学会理事、2015年より香川大学男女共同参画推進室長。

## ダイバーシティから 大学・社会の活性化へ

香川大学に着任し20年以上が経ち、研究者としての道を進んでそろそろ30年になります。当時は、女性研究者の数は決して多いとは言えず、信頼できる指導教授とともに研究者の道を歩む仲間と様々な議論しながら、変化する社会の中で自分なりに研究テーマについて考え、研究成果を発表することに努めてきました。新たな研究課題を探索しつつ、研究と生活の調和を進めることは自らにとっても重要なテーマです。香川大学という組織の中で、全ての研究者が研究と生活の調和・両立を実現し、さらにより多くの女性研究者が、キャリアアップを目指す環境が整備されることは、これからの大学全体の発展には欠かせない牽引力となり、それに向かって組織として一丸になれるように考えていきたいと思っています。

### 研究者へのメッセージ

長期的な視野・展望を持って、それぞれが研究に打ち込める大学での環境整備を目指し、様々な形で社会に貢献できる研究成果の達成に向けてともに歩んでいきましょう。

### 香川大学の取組

女性研究者の研究力向上を目指し、研究補助者の配置、研究力伸長セミナー等の開催、共同研究事業、海外論文投稿や校閲補助支援等の事業の取組を行っています。平成23年度より教職員の子どもの短時間預かりサポートをする「香大っこサポーター」学生の養成を行い、入試時の託児も継続的に実施しており、学内においても高く評価されています。

また、教育研究評議会の評議員に女性研究者が常態的に参画できる仕組みの構築及び全学各学部の女性研究者とのキャンパス・メンター・ミーティングの開催等、女性研究者の上位職・管理職への登用につながる支援も積極的に行っています。今後は、女性研究者の会の設立等、事業取組の土台を構築し、女性研究者の裾野拡大に向けた取組等、男女共同参画推進に向けたダイバーシティ事業への更なる事業展開を推進していきます。



▲2019年度サマースクール



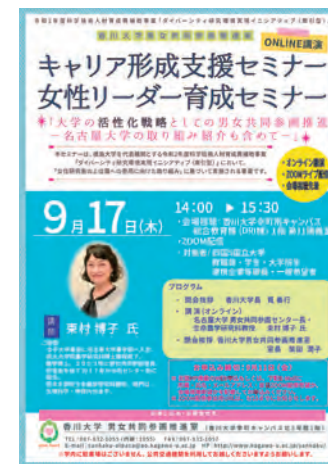
▲2019年度女性リーダー育成セミナー



▲2019年度統計セミナー



▲2018年度介護セミナー



▲2020年9月17日開催「キャリア形成支援セミナー／女性リーダー育成セミナー」



▲2020年12月11日開催「連携×統計セミナー2020」



▲香川大学男女共同参画推進室ニュースレター「Olive・Heart 通信」



▲「ワーク・ライフ・バランス応援ハンドブック」

### 香川大学 男女共同参画推進室

〒760-8521 香川県高松市幸町1番1号

Tel.087-832-1055

<http://www.kagawa-u.ac.jp/sankaku/index.html>

Mail. [sankaku-alpaca-h@kagawa-u.ac.jp](mailto:sankaku-alpaca-h@kagawa-u.ac.jp)

### 2020年度四国ダイバーシティ推進委員

- 柴田 潤子[男女共同参画推進室長/法学部 教授]
- 清水 裕子[男女共同参画推進室 副室長/医学部 教授]
- 村上 弥生[男女共同参画推進室 コーディネーター]
- 小西 誠二[給与福利グループ 次長]
- 和泉 佐知代[給与福利グループ サプリダー]
- 小方 朋子[男女共同参画推進室 副室長/教育学部 教授]

## 一人ひとりの個性が輝く 大学と社会をめざして

大学が組織として成長、成熟していくためには、性別、年齢、国籍、価値観などにさまざまな違い（多様性＝ダイバーシティ）を持つ人材を積極的に受け入れていく姿勢が極めて重要です。多様な個性を持つ構成員が大学運営に参加し、その能力を最大限に発揮することで、組織全体のパフォーマンスも飛躍的に向上します。愛媛大学のダイバーシティ推進戦略の中核に「女性登用」があります。2010年度の文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業採択を契機として、女性研究者を持続的に育成するための環境整備および女性教員の増員に継続的に取り組んでいます。2012年4月には、女性未来育成センター、男女共同参画室、障害者雇用推進室、高齢者雇用推進室からなる「ダイバーシティ推進本部」を立ち上げ、全学的な意思を持ってダイバーシティに取り組む方向性を打ち出しましたし、その翌年度からは、女性未来育成センターの中に男女共同参画室を取り込み、両組織が担ってきた事業を一体的に継続実施しています。今後も、女性未来育成センターを次世代の人材育成中核拠点として位置づけ、女性研究者支援および男女共同参画推進に前向きに取り組んでいく所存です。



大橋 裕一  
OHASHI Yuichi

愛媛大学 学長

### 愛媛大学 ダイバーシティ推進本部 女性未来育成センター



堀 利栄 HORI Rie

愛媛大学理工学研究科理学系地球進化学 教授、理学博士（地学）、日本地質学会ジェンダーダイバーシティ委員会委員長、JpGU ダイバーシティ推進委員会副委員長、日本学術会議会員

略歴／愛媛県生まれ。神戸大学理学部地球科学科卒。プレートテクトニクスを証明する放散虫研究を極めたいと、大阪市立大学大学院理学研究科に進学、博士課程修了後、学振PD、非常勤講師を経て1994年4月より愛媛大学理学部地球科学科に助手とし採用され現在に至る。愛媛大学理学部では女性教員・通称使用第1号。

「あせらず、くさらず、つづける」。あなたの努力は必ず何処かできちんと見てくれている人がいます。

愛媛大学ダイバーシティ推進本部女性未来育成センターは、2010年度に設立され、それ以来愛媛大学における男女共同参画推進と女性活躍の支援活動に取り組んできました。例えば、意識改革のためのセミナーやシンポジウム、各種研修の企画・実施、育児支援として学内保育所や長期休暇中の学童保育の立ち上げや毎年の実施、出産・育児中の若手研究者への支援などに関わってきました。また、次世代育成のための活動も行っており、女子中高生や小学生向けの各種イベントを本学のリケジョ活動グループ「サイエンスひめこ」と一緒に毎年実施しております。これからも、みなさんと一緒に、前向きに明るく女性活躍推進のための活動が続けて参りたいと思います。

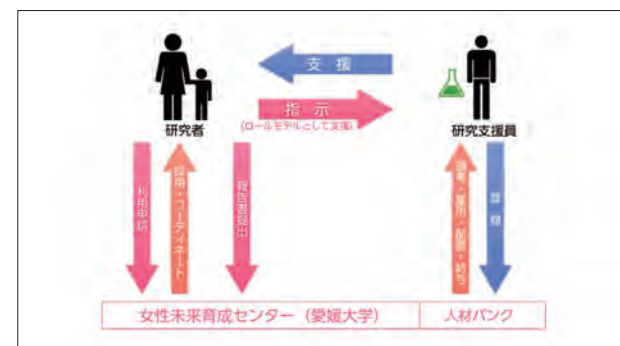
#### 研究者へのメッセージ

私が博士課程を修了した時、恩師の「ここまできたら皆一緒。あとは運がいいか悪いかです」との言葉にショックを受けましたが、研究者としてポストに就くことができるのは往々にして“運”？“巡り合わせ”もあります。あなたより実力が劣ると思われる人が先に任用される・昇進するかもしれませんが、あせらず、くさらず、良い研究を続けてください。必ず、あなたの努力を見てくれている人がいます。

### 愛媛大学の取組

愛媛大学では、大学戦略に沿った女性教員の積極的な採用を目指し、2016年度から「学長戦略・女性教員ポジティブ・アクション事業」により、女性限定採用人事を5件実施しました。また、クロスアポイントメントによる「DualCareer 支援制度」も実施し、女性の上位職登用に取り組んでいます。

研究者支援事業では、出産・育児負担で研究時間の確保が困難な研究者に対し研究支援員を派遣する「キャリア支援事業」を実施するとともに、重信地区、城北地区に保育所を開所し、育児と就労・学業が両立できるワーク・ライフ・バランスの構築を目指しています。また次世代育成に向けた取組では、理系女子学生グループ「サイエンスひめこ」を結成し、理系進学に興味を持つ女子高校生対象の相談会開催や、小学生向けイベントの開催などを行っています。他にも、ダイバーシティ推進シンポジウムや研究力伸長セミナーを企画・実施し、女性研究者の活躍および男女共同参画推進のための環境醸成に取り組んでいます。



▲若手研究者キャリア支援事業



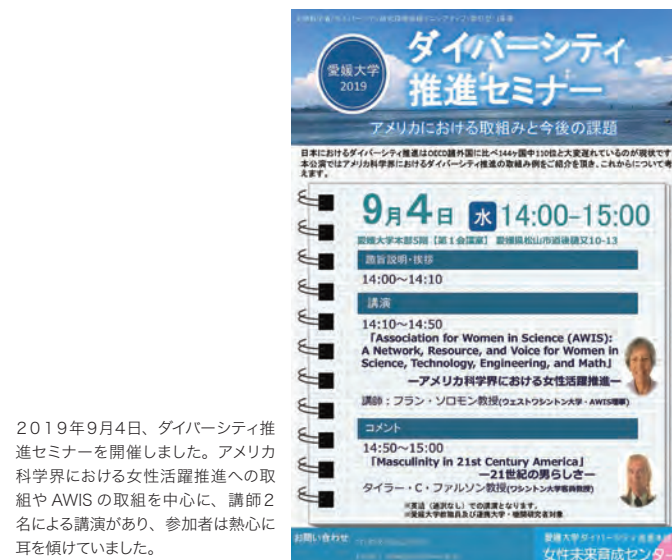
▲サイエンスプリンセスプロジェクトでは、リケジョ講演会や発表会などを定期的に開催し、女子中高生が先輩リケジョと交流を通して、理系進学を身近に感じ魅力を伝える機会を創出しています。



▲ワーク・ライフ・バランスの構築の取り組みのひとつとして設置された、城北キャンパス内の保育所「えみかキッズ」。“えみか”とは愛媛大学で愛されているマスコットキャラクター。“えみか”のように教職員、学生、皆に愛される温かい保育所になってほしいという願いからこの名前が付けられました。



▲えみかキッズ園庭



2019年9月4日、ダイバーシティ推進セミナーを開催しました。アメリカ科学界における女性活躍推進への取組やAWISの取組を中心に、講師2名による講演があり、参加者は熱心に耳を傾けていました。



▲ダイバーシティ推進セミナー講師：タイラー・C・ファルゾン教授(ワシントン大学客員教授)

▲ダイバーシティ推進セミナー講師：フラン・ソロモン教授(ウエストワシントン大学・AWIS理事)

### 愛媛大学 ダイバーシティ推進本部 女性未来育成センター

〒790-8577 愛媛県松山市道後樋又10番13号

Tel.089-927-9032

<http://hime.adm.ehime-u.ac.jp/>

Mail. [hime@stu.ehime-u.ac.jp](mailto:hime@stu.ehime-u.ac.jp)

### 2020年度四国ダイバーシティ推進委員

- 八尋 秀典[理事・副学長(財務・人事マネジメント)/ダイバーシティ推進本部長]
- 堀 利栄[学長特別補佐(男女共同参画)/女性未来育成センター長/理工学研究科理学系 教授]
- 米田 健[総務部人事課 課長]
- 林 知寿[総務部人事課労務チーム チームリーダー]



## 男女共同参画を大学で実践し、教育につなげ、そして社会に広げる

高知大学は、「男女共同参画の基本理念・基本方針」（2012年2月制定）を掲げ、男女共同参画を大学で実践し、教育につなげ、そして社会に広げるという基本的な考えのもと、男女双方にとって、働きやすく学びやすい場、個性と能力をよりいっそう発揮できる場を形成することに努めています。今日の日本は少子高齢による家族形態、地域のあり方、働き方改革などの課題が山積しておりますが、学知の探究拠点である大学には、男女共同参画を阻害している社会が抱える多面的な課題の解決に向けて、教育、職場環境において積極的に取り組むことが要請されています。高知大学の男女共同参画推進室の愛称は「しあわせぶんたん」、(文旦=分担)です。「みんなでしあわせを分担したい!」そのために皆で知恵を出し合い、行動していこうというコンセプトです。あらゆる関係者が生き生きと活躍できる環境づくりと地域への展開を目指して取り組んでいきたいと考えています。



櫻井 克年  
SAKURAI Katsutoshi

高知大学 学長

### 高知大学 男女共同参画推進室(しあわせぶんたん)



廣瀬 淳一 HIROSE Junichi

高知大学 安全・安心機構 男女共同参画推進室長、教育研究部総合科学系地域協働教育学部 准教授

略歴／千葉県生まれ。立教大学文学部教育学科卒業。神戸大学大学院国際協力研究科に進学。民間企業を経て、青年海外協力隊員としてパラオ共和国商務貿易省にて活動。その後、在パラオ日本国大使館専門調査員、国立女性教育会館特別専門職員、国際協力機構ザンビア事務所勤務を経て、2012年12月に高知大学に着任。

## 世界の不思議や課題に挑む研究者 コミュニティにこそダイバーシティが必要

私は学生と「倫・理」について話し合うことがあります。「倫」には「(同列に並んだ)仲間」、「理」には「ものごとに筋目を付ける」という意味がそれぞれあります。コミュニティでは、メンバーが上手くやっていくための決め事を行います。仮に、男性(女性・日本人)ばかりの職場があり、そこに女性(男性・外国人)が加われば、対話と合意形成の中から生まれた決め事が必要です。私が思う「倫・理」は不変ではなく、変化するものです。世界の不思議や課題に挑む研究者のコミュニティは多様な人材と、その協力が不可欠です。研究コミュニティを支援する立場にあるものとして、ぜひ学生、研究者、そして教育・研究を支える人たちの対話の場を広げていきたいと思います。

### 研究者へのメッセージ

これからの研究者コミュニティはますますグローバルになるでしょう。多様な人材との協力を考えた時、国際ジャーナルに発表することを意識して研究することはいろいろと役立つと思います。これからは特に人文・社会科学分野で国際的な発信が求められると思います。

## 高知大学の取組

高知大学の男女共同参画推進室は、性別に関わらずその個性を活かして活躍できるキャンパスを目標に取り組んでいます。ホームページでは、先輩研究者のロールモデル紹介をはじめ、セミナー情報など、新しい情報の更新でアクセスしやすいページづくりを行っています。また、同室に男女共同参画支援ステーションを設けて、ライフイベントと仕事の両立や女性研究者への具体的な支援を行っています。

例えば、両立支援として「両立コンシェルジュ・デスク」による相談受付や「研究支援員制度」の実施、女性研究者支援としては「ライフイベントからの復職支援制度」、「国際学術論文投稿支援」、「国際ジャーナル投稿セミナー」等を実施してきました。これからもニーズに耳を傾けながら事業を展開していきます。



▲ 2019年英語論文投稿セミナー、2020年・2021年英語論文書き方セミナー

### 高知大学 男女共同参画推進室 (しあわせぶんたん)

〒780-8520 高知県高知市曙町2丁目5-1

Tel.088-888-8022

<https://www.kochi-u.ac.jp/sankaku/>

Mail. [sankaku@kochi-u.ac.jp](mailto:sankaku@kochi-u.ac.jp)



▲男女共同参画推進室 (しあわせぶんたん)



▲高知大学の育児・介護等と仕事の両立相談窓口「両立コンシェルジュデスク」



▲「ロールモデル紹介」では、高知大学に縁のある研究者など各分野の専門家の方々の、仕事にまつわるエピソードや次世代に向けたメッセージを紹介。



▲科研費獲得セミナー



▲ライフイベント休憩室

### 2020年度四国ダイバーシティ推進委員

- 宮井 千恵[理事(ワークライフバランス担当)]
- 廣瀬 淳一[男女共同参画推進室 室長/安全・安心機構 准教授]
- 小島 優子[男女共同参画支援ステーション長/安全・安心機構 准教授]
- 有友 幸代[人事課労務管理専門員]



# 鳴門教育大学

Naruto University of Education

## ダイバーシティは一人ひとりの豊かな人生を目指すみんなのための取組

「男女共同参画」は女性のためにだけ、男女共同参画社会づくりに取り組むものではありません。女性、男性、子ども、大人、すべてに関わる人権問題であり、一人ひとりの豊かな人生を目指す、みんなのための取組なのです。まさに、教師教育のリーダー大学である鳴門教育大学が取り組むべき課題です。さらに近年、本学では、グローバル教育、発達支援およびセクシャル・マイノリティへの支援など「ダイバーシティ」にも取り組んでいます。本学において、男女共同参画およびダイバーシティに関して意識の高い学生を養成することは、彼ら彼女らが教師になったとき、人権意識が高くダイバーシティの実現に向けて積極的に行動するように子どもたちを教育することにつながるでしょう。この点においても、本学が取り組むことに大きな意義があると思います。これからも、本学はダイバーシティの実現に向けての様々な取組を推進して参ります。



山下一夫  
YAMASHITA Kazuo

鳴門教育大学 学長

## 鳴門教育大学 男女共同参画推進室



大石 雅章 OISHI Masaaki

鳴門教育大学 男女共同参画推進室オブザーバー、理事（教育・研究担当）、副学長（教育・研究担当）

略歴／大阪府生まれ。大阪大学文学部卒業。歴史に興味があり大阪大学大学院文学研究科に進学。その後大阪大学文学部助手として従事。1990年より鳴門教育大学に着任。2010年より副学長（学生支援担当）に就任、2016年より理事・副学長（教育・研究担当）に就任。

## 女性が活躍する社会は、男性にとっても魅力ある社会、大学もしかり

性・人種・国籍・年齢など多様な人材によって成り立つ社会は、個々の多角的な観点や発想から、社会の課題に取り組む能力も柔軟であり、新たなイノベーションを創造する可能性も高いと考えられます。大学組織も同じです。男性中心の組織から変わらなければなりません。鳴門教育大学では教員に占める女性の比率を高めるように、第3期中期計画（2016年度から2021年度）に記載し努めてきました。現在、大学における（附属学校除く）女性教員の比率は24.8%、女性役員の比率は17.14%であります。男性教職員が毎年育児休暇を取得するなど、女性の活動を支える上で、男性の働き方も徐々に変化しつつあります。今後さらに女性が男性とともに活躍できる大学づくりをすすめていきます。

### 研究者へのメッセージ

女性の研究環境は、まだまだ十分とはいえませんが、教員の働き方改革や教員に占める女性の比率を上げる活動をすすめています。ダイバーシティの委員会もありますので、問題などがあれば、まずは気軽に関係窓口にご相談ください。研究者の皆さんの活躍を応援しています。

## 鳴門教育大学の取組

多様性を生かすためには、ワーク・ライフ・バランスへの取組も重要となることから、男性職員への育児休業取得を推進しています。鳴門教育大学では複数の男性職員が育児休業を取得しました。

また、発達支援およびセクシャル・マイノリティへの支援も行っています。2020年10月には発達障害学生との関わり方、支援方法に関する研修会「多様なニーズのある学生への支援V ～新しい生活様式への多様な反応～」が開催され、また同年11月には、大学における多様な性への対応について考えるセクシャル・マイノリティの研修会が開催され、教職員の意識向上が図られました。今後も男女共同参画社会の実現に向けての様々な取組を推進していきます。

## 鳴門教育大学 男女共同参画基本計画

- (1) 男女共同参画を推進する環境の整備と制度の改善
- (2) 男女共同参画の視点に立った教育研究組織の確立
- (3) 男女共同参画に資する教育・研究の充実及び就業と家庭生活の両立支援
- (4) 男女共同参画に関する教職員・学生への啓発・意識改善

### 男女共同参画推進室とは

鳴門教育大学男女共同参画推進室では、以下の活動をおこないます。

#### 1. 男女共同参画を推進する環境の整備と制度の改善

男女共同参画を推進していくための体制を整え、学内の制度や慣行を見直し、必要に応じた改善をおこないます。

#### 2. 男女共同参画の視点に立った教育研究組織の確立

教育研究組織における男女共同参画の拡大を目指し、男女共同参画推進にかかわる評価指標（Key Performance Indicators, KPI）を定めて活動内容を客観視し、目標達成に向けた状況を把握していきます。

#### 3. 男女共同参画に資する教育・研究の充実及び就業と家庭生活の両立支援

女性の活躍推進についての様々なセミナーやワーク・ライフ・バランスを支援するための学内の制度や社会的資源を紹介し、さまざまな状況にあっても学習や研究、仕事を続けられるよう応援します。

#### 4. 男女共同参画に関する教職員・学生への啓発・意識改善

男女共同参画とは何か、なぜ必要なのか、どのように推進していくのかについて検討し、教職員・学生・大学内外の方に向けた情報発信をおこないます。

### 特別な支援を要する学生への支援のあり方を 一緒に考えてみましょう Ver.5

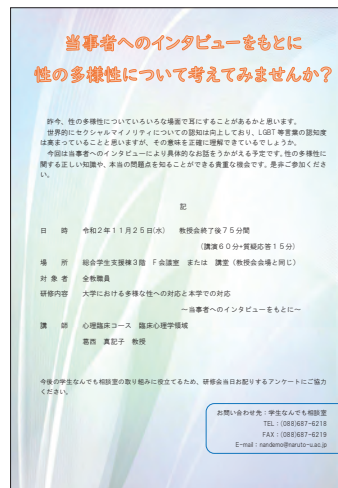
発達障害学生との関わり方、支援方法に関する研修会は今回で5回目となります。

「新しい生活様式」という言葉がよく使われるようになりましたが、本学での学生生活も昨年度までとまったく異なった生活感になっています。

入居期間、オンライン授業、3密の回避など・・・それぞれの状況に対する学生たちの反応も様々です。新しい生活様式に対する多様な反応についてみんなで共有しながら、今後の学生支援について考えていきたいと思います。

| 記                                                                                            |                                        |
|----------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------|
| 日 時                                                                                          | 令和2年10月28日(木) 教員会終了後より6分間              |
| 場 所                                                                                          | 講堂 または 総合学生支援棟3階3会議室（教員会会場と同じ）         |
| 対 象 者                                                                                        | 全教職員                                   |
| 研修内容                                                                                         | 「多様なニーズのある学生への支援V<br>～新しい生活様式への多様な反応～」 |
| 講 師                                                                                          | 心理臨床コース臨床心理学科<br>小倉正典准教授（学生なんでも相談室運営員） |
| お問い合わせ先：学生なんでも相談室<br>TEL：(088)678-6218<br>FAX：(088)678-6219<br>E-mail：nandemo@naruto-u.ac.jp |                                        |

2020年10月28日  
開催の発達支援研修会の  
ポスター



▲セクシャル・マイノリティ研修会ポスターと、2020年11月25日に開催された研修会の様子



## 鳴門教育大学 男女共同参画推進室

〒772-8502 徳島県鳴門市鳴門町高島宇中島748番地  
Tel.088-678-6000  
<http://www.naruto-u.ac.jp/>  
Mail. diversity@naruto-u.ac.jp

## 2020年度四国ダイバーシティ推進委員

- 尾前 五郎[副学長(総務・財務担当)/男女共同参画推進室長]
- 黒川 衣代[男女共同参画推進室 副室長/大学院学校教育研究科 教授]
- 坂本 有芳[男女共同参画推進室 室員/大学院学校教育研究科 准教授]
- 須藤 紋史[男女共同参画推進室 室員/総務部総務課 課長]
- 林 悦子[男女共同参画推進室 室員/総務部総務課 課長補佐]
- 寒川 正英[総務部総務課人事計画係長]



# 徳島県立工業技術センター

Tokushima Prefectural Industrial Technology Center

## 徳島県の工業振興および経済発展のために 多様な人材が活躍できる環境づくりを

徳島県立工業技術センターは、工業技術の向上とその成果の普及や適正な計量の実施の確保を図り、本県工業の振興および経済の発展に寄与するため、研究開発、技術相談、依頼による試験・分析、試験研究機器・施設の開放などの業務を行っています。多様な人材の活躍を推進する取組として、2018年度より、科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)「四国発信!ダイバーシティ研究環境調和推進プロジェクト」を四国地域の産学官の9機関の連携により実施しております。これまでに当センターの女性研究者と連携機関の女性研究者との共同研究やセミナー、研修等を通じ、研究力向上やキャリア形成支援を行ってきました。今後も当センター内に組織したダイバーシティ推進プロジェクトチームを中心に活動を続け、女性研究者をはじめとする多様な人材が活躍できる環境づくりに取り組んで参ります。



香川 和仁  
KAGAWA Kazuhito

徳島県立工業技術センター 所長

### センター概要と取組

当センターでは、研究員による無料相談等の技術相談、研究開発業務、試験分析業務、計量業務、試作等に必要の機器・施設の開放などを行っています。また「LEDトータルサポート拠点」として、LEDの用途を拡大する企業との共同研究や共同開発、時代を先取りする新製品や高付加価値な製品を市場に送り出すための支援機能の充実などを重点的に進めています。2019年度に開催したダイバーシティ推進セミナーでは技術系女性職員を対象として、各職場での弊害や技術職特有の課題等を共有し、それらの解決方法やスキルアップに必要な事柄等について理解を深めるとともに実践するためのスキル習得を目標として実施しました。徳島県内の企業、大学および公設試験研究機関から22名の女性技術者・研究者が参加し、キャリア形成に必要なスキルを習得するとともに、グループ演習や意見交換を通じて他機関の女性研究者等との交流の機会にもなりました。



### 徳島県立工業技術センター

〒770-8021 徳島県徳島市雑賀町西開11-2  
Tel.088-669-4711  
<https://www.itc.pref.tokushima.jp/>  
Mail. kikaku06@itc.pref.tokushima.jp

### 2020年度四国ダイバーシティ推進委員

- 香川 和仁[所長]
- 武知 博憲[副所長]
- 山本 遼人[次長]
- 吉本 亮子[企画総務担当 課長]
- 福田 和弘[企画総務担当 主席]



# 徳島県立農林水産総合技術支援センター

Tokushima Prefectural Agriculture, Forestry and Fisheries Technology Support Center

## ダイバーシティ推進により 農林水産研究活動の活性化を目指します

徳島県立農林水産総合技術支援センターは、徳島県における農林水産業の持続的な発展や農山村の活性化を図るため、2005年4月、農林水産業の研究、技術普及、教育の各機能を一体化して発足しました。研究部門では、もうかる農林水産業を実現するため、IoTやAIなどを活用したスマート技術の導入・実装、現場ニーズに対応した新品種の創出、生産力の強化や低コスト化を目指した新技術開発等を、関係団体や生産者、企業、大学等と連携して行っています。また、ダイバーシティの推進は、男女共同参画の観点のもとより、多様な視点や発想で研究活動を活性化し、組織としての研究開発力を向上することにつながります。今後とも、四国ダイバーシティ推進委員会をはじめとした関係団体等と連携し、女性研究者の研究力向上やリーダー育成の取組を推進してまいります。



宮本 史典  
MIYAMOTO Fuminori

徳島県立農林水産総合技術支援センター 所長

### センター概要と取組

当センターでは2020年度において全73名の研究者のうち19名(26%)が女性であり、女性比率は近年特に増加しています。女性研究者の増加と研究力の向上を目的に、連携機関との共同研究事業を推進しているほか、各機関が開催するシンポジウムや研修会への参加、論文投稿への支援等を行っています。この結果、本県農林水産業の振興に資する成果が得られたことに加え、他機関の女性研究者とのネットワークが形成され、新たな共同研究の立ち上げや競争的資金獲得に向けたきっかけづくりができました。また、女性研究者の裾野を広げるため、主に地元の徳島大学と連携し、学生のインターンシップでの受入れを推進しています。2020年11月までに計41名(うち女性14名)を受け入れ、研究職場への理解を深めてもらうことができました。



### 徳島県立農林水産総合技術支援センター

〒779-3233 徳島県名西郡石井町石井字石井1660  
Tel.088-674-1660  
<https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/>  
Mail. keieikenkyuuka@pref.tokushima.jp

### 2020年度四国ダイバーシティ推進委員

- 宮本 史典[所長]
- 駒留 勇人[副所長]
- 美馬 義卓[人材育成担当室長]
- 林 博昭[農産園芸研究課 副課長]



# アオイ電子株式会社

AOI ELECTRONICS CO.,LTD.

## 企業の将来を担う人材育成とダイバーシティ推進

アオイ電子の最新の技術から生み出されるエレクトロニクス製品は、あらゆる産業に用いられ、その利用範囲はますます広がっています。エネルギーな行動力、豊かな創造力、確かな技術により、この急速な技術革新時代の産業界にあって、ユーザーの皆様にも信頼される製品づくりを目指しています。「未来に夢を運ぶ企業でありたい」「人を育て人が育てる企業でありたい」「社会とともに発展する企業でありたい」の3つのコンセプトを基に、既成の概念にとらわれることのない創造力とどのような困難にもひるむことのない行動力を養い、常に前進できる強い企業でありたいと思います。持続的成長を成し遂げるためには、多様な人材の活躍促進は重要課題であることから、女性活躍推進法に基づき、2016年4月に一般事業主行動計画を策定しました。女性が働きやすい職場環境をつくることにより、全ての社員がその能力を十分に発揮して、社会に貢献できる企業を目指します。



木下 和洋  
KINOSHITA Kazuhiro

代表取締役 常務

### 会社概要と取組

電子部品の独立系メーカーとして、家電、自動車、産業機器や情報通信機器メーカーへ、オリジナリティーのある製品を提供しています。この度、共同実施機関の香川大学との共同研究で、MEMSや赤外分光イメージング技術を用いた製品開発を実現しました。本事業では、組織全体の研究力の向上やダイバーシティ推進に向け、共同実施機関やネットワーク機関との連携による積極的な情報収集やさらなる研究連携を奨励するとともに、新たな製品開発を目指して女性や若手研究者の計画的な育成や支援に取り組んでいます。

- ダイバーシティ研究環境整備のための取組
- 女性研究者の研究力向上のための取組とそれを通じたリーダー育成のための取組
- 女性研究者の上位職への積極登用にに向けた取組



### 2020年度四国ダイバーシティ推進委員

- 木下 和洋[代表取締役 常務]
- 青木 英二[管理本部人事課 課長]
- 宮崎 薫[経理部 執行役員 経理部長]
- 小川 勉[経理部 経理課 副主任]

### アオイ電子株式会社

〒761-8014 香川県高松市香西南町455-1  
Tel.087-882-1131  
<http://www.aoi-electronics.co.jp/index.html>  
Mail. [iaoi010@aoi-electronics.co.jp](mailto:iaoi010@aoi-electronics.co.jp)



# 協和株式会社

KYOWA Co., Ltd

## 女性研究者の定着を図り総合的企業価値を向上させる

企業において研究者は結婚、出産、育児など家庭の環境から、概して女性を敬遠する傾向があります。女性研究者は能力が高いが研究職を得ることができず、それまで得た知見、経験を活かせる機会が企業においては特に少なく感じられます。しかし視点を変えてみると、生活環境の変化を度外視すれば、企業としてはより能力の高い人材を得る可能性が高くなります。近年の日本の社会環境から鑑みると、女性の機会均等化を促進する働きかけは随所でみられますが具現化されている例はまだ少ないのが実情です。旧来の歴史によるものもありますが、近未来的には女性の登用は不可欠であり、時間はかかるが浸透していくものと考えています。能力の高い女性研究者を定着させるためには企業努力が必要であり、育児休暇後の復職プログラムを含め企業側でも努力することによって、個々の知見、経験を企業のパワーとすることが可能となり、企業価値が向上することによってWinWinの関係性が確立すると思います。



野澤 重晴  
NOZAWA Shigeharu

代表取締役社長

### 会社概要と取組

協和株式会社は、関西を拠点に独自開発の植物栽培装置「ハイポニカ®」の製造・販売を行っております。国内および海外からも注目を浴び近代農業の発展と食糧危機の回避を目指し私たちは躍動しています。この度、女性研究者の研究力向上、上位職への登用推進、女性研究者の定着を目的としてダイバーシティ研究環境を構築しました。具体的な取組として徳島大学 AWA サポートセンターの支援のもと「女性職員キャリア形成セミナー」の開催（2019年5月）や、愛媛大学と共同で女性研究者の博士号取得の支援を行いました。結果、愛媛大学等との共同研究成果に基づいた装置「光合成蒸散リアルタイムモニタリングシステム Photo[synthesis] Cell®」の商品化につながりました。



▲水気耕栽培ハイポニカは1970年に誕生した、協和独自の水耕栽培方法です。特殊な肥料やバイオテクノロジーを利用せず、「ハイポニカ®」で栽培した1粒のトマトの種から、約1万7,000個の結実を達成させています。植物が持つ潜在能力を最大限に発揮できる環境を整えることにより、飛躍的に生産性を上げるものです。



▲「女性職員キャリア形成セミナー」の様子

▲光合成蒸散リアルタイムモニタリングシステム Photo[synthesis] Cell®の概要

### 協和株式会社

〒569-0062 大阪府高槻市下田部町1丁目1番5号  
Tel.072-685-1155  
<https://www.kyowajpn.co.jp/>  
Mail. [hyponica@kyowajpn.co.jp](mailto:hyponica@kyowajpn.co.jp)

### 2020年度四国ダイバーシティ推進委員

- 佐藤 裕久[取締役]
- 磯山 侑里[ハイポニカ事業本部 係長]
- 本田 梨英子[ハイポニカ事業本部 職員]

# 2部 四国×ダイバーシティ推進共同研究プロジェクト

## 女性代表研究者ロールモデル

### 2018年度～2020年度 ダイバーシティ推進共同研究プロジェクト 研究代表者一覧

※職名: 2021年1月1日現在

| 機関名  | 研究者氏名 | 職名※   | 研究題目（採択年度）                                                        | 共同研究機関                               | 掲載  |
|------|-------|-------|-------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|-----|
| 徳島大学 | 奥村仙示  | 講師    | カロリー密度に注目した肥満者から高齢者まで無理なく摂取できる食事の開発(2018～2020)                    | 香川大学／同志社女子大学／島根県立大学                  | P26 |
| 徳島大学 | 押村美幸  | 講師    | エステル交換反応を用いたポリマー側鎖変換によるカチオン性ポリマーの合成と特性評価(2018～2020)               | 香川大学                                 | P27 |
| 徳島大学 | 佐々木千鶴 | 准教授   | 多段階水熱処理を利用した徳島県産ワカメ廃棄物からの機能性食品・医薬品原料の創製に関する研究(2019～2020)          | 徳島県立農林水産総合技術支援センター／徳島県立工業技術センター      | P28 |
| 徳島大学 | 堤 理恵  | 講師    | 消化管フローラに注目した和柑橘の機能性成分の探索とその応用展開(2018～2020)                        | 徳島県立農林水産総合技術支援センター／徳島県立工業技術センター／愛媛大学 | P29 |
| 徳島大学 | 廣島佑香  | 助教    | <i>Porphyromonas gingivalis</i> 由来メンブレンベシクルが歯周組織に及ぼす影響(2019～2020) | 香川大学／徳島大学                            | P30 |
| 徳島大学 | 向井理恵  | 准教授   | 骨格筋を標的とした機能性食品の開発に向けた基盤研究(2018～2020)                              | 徳島県立農林水産総合技術支援センター／徳島大学              | P31 |
| 香川大学 | 磯打千雅子 | 特命准教授 | 大災害の時代を生きる女性のための防災対策に関する研究～「ライフステージフリー」の実現に向けて～(2018～2020)        | 徳島大学／香川大学                            | P32 |
| 香川大学 | 市原多香子 | 教授    | 日本型学校保健システムを取り入れたカンボジア保健教員育成方法の開発に関する研究(2018)                     | 徳島大学／香川大学                            | P33 |
|      |       |       | 勤労者のサルコペニア予防における筋肉量減少に影響するライフスタイルの特定－疫学調査からの検証－(2019～2020)        | 徳島大学／香川大学                            |     |
| 香川大学 | 上村 忍  | 准教授   | バリア能を有するナノシート - 高分子ハイブリッド薄膜の開発(2018～2020)                         | 徳島大学                                 | P34 |
| 香川大学 | 川人潤子  | 准教授   | 肥満に関する自己複雑性とメンタルヘルスへの影響の検討(2019)                                  | 徳島大学                                 | P35 |
|      |       |       | Body Mass Index と自己複雑性との関連の検討－臨床群と健常群との比較検討－(2020)                | 徳島大学／香川大学                            |     |
| 香川大学 | 倉原 琳  | 准教授   | 肺動脈肺高血圧の新規治療薬の探索(2019～2020)                                       | 徳島大学／香川大学                            | P36 |
| 香川大学 | 轟木靖子  | 教授    | 外国人住民支援を考慮した四国における地域防災についての研究(2020)                               | 愛媛大学／香川大学                            | P37 |
| 香川大学 | 野村美加  | 教授    | 香川県で栽培されているサトウキビ共生微生物群の網羅的解析(2019)                                | 高知大学                                 | P38 |
|      |       |       | ケニアおよび香川県で栽培されているサトウキビ共生微生物群の比較(2020)                             | 高知大学                                 |     |
| 香川大学 | 松田陽子  | 教授    | 肝癌の病理診断の施設間の診断一致率および正診率の向上を目指した取り組み(2019～2020)                    | 愛媛大学／徳島大学／高知大学                       | P39 |
| 愛媛大学 | 上加裕子  | 准教授   | 植物工場の熱対流構造の違いによる空間温度分布の解明とトマト個体への影響(2018～2020)                    | 協和株式会社／愛媛大学                          | P40 |
| 愛媛大学 | 川瀬久美子 | 准教授   | 持続可能な社会の実現にむけた行動様式の転換を促す社会科授業の開発：水俣市における減農薬甘夏栽培の教材化(2020)         | 鳴門教育大学                               | P41 |

| 機関名                | 研究者氏名                  | 職名※   | 研究題目（採択年度）                                                                                                           | 共同研究機関                                    | 掲載  |
|--------------------|------------------------|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|-----|
| 愛媛大学               | 吉村 彩                   | 助教    | 酸化還元活性な有機配位子を有するMOFの創成と二次電池電極活物質への展開(2019～2020)                                                                      | 高知大学／愛媛大学／産業技術総合研究所エネルギー                  | P42 |
| 高知大学               | 磯部 香                   | 講師    | 多文化共生社会構築に向けて少子化四国の保育と子どものウェル・ビーイングを考える－日本四国と中国遼寧省の子育て支援・就労・ジェンダーの比較から－(2019～2020)                                   | 香川大学／大連外国語大学／高知大学                         | P43 |
| 高知大学               | 越智里香                   | 助教    | 生体分子に応答して色調変化を示す超分子ヒドロゲルセンサの開発(2019～2020)                                                                            | 愛媛大学                                      | P44 |
| 高知大学               | KARS Myriam            | 助教    | Iron sulfides in metamorphic rocks: a rock magnetic approach in the Sanbagawa belt,central Shikoku, Japan(2019～2020) | 愛媛大学／高知大学／同志社大学                           | P45 |
| 高知大学               | 杉田郁代                   | 准教授   | 会議アプリツールを用いたオンライン授業におけるアクティブ・ラーニングの授業デザインと Tips の開発～教育効果を上げる教授モデルの開発(2020)                                           | 徳島大学／愛媛大学／高知大学                            | P46 |
| 高知大学               | 都留英美                   | 助教    | コンプレキシシによる抗体分泌制御が全身性エリテマトーデスの病態進行抑制に果たす役割(2018～2020)                                                                 | 徳島大学／高知大学                                 | P47 |
| 鳴門教育大学             | 葛西真記子                  | 教授    | 個性を伸ばすためのジェンダー・セクシュアリティ幼児教育プログラムの開発(2020)                                                                            | 徳島大学                                      | P48 |
| 鳴門教育大学             | 黒川衣代                   | 教授    | 家事に対する期待レベル、葛藤、ストレスとダウンサイジング(2019～2020)                                                                              | 徳島大学                                      | P49 |
| 鳴門教育大学             | 坂本有芳                   | 准教授   | 消費者の衣料品ロス削減に向けた行動変容支援ツールの検討(2020)                                                                                    | 愛媛大学                                      | P50 |
| 徳島県立工業技術センター       | 室内聡子                   | 研究係長  | 木質資源と高機能素材を活用した家具の開発(2019)                                                                                           | 徳島大学                                      | P51 |
|                    |                        |       | 木質資源と高機能素材を活用した家具の改良(2020)                                                                                           | 徳島大学                                      |     |
| 徳島県立工業技術センター       | 吉本亮子                   | 課長    | ワカメの水溶性多糖に関する研究(2019)                                                                                                | 徳島大学                                      | P52 |
| 徳島県立農林水産総合技術支援センター | 新居美香                   | 専門研究員 | 香酸カンキツ搾汁残渣等の再資源化と芳香成分の用途開発(2018)                                                                                     | 徳島大学                                      | P53 |
|                    |                        |       | 徳島県産香酸カンキツの特長を活かした新規用途開発(2019～2020)                                                                                  | 徳島大学                                      |     |
| 徳島県立農林水産総合技術支援センター | 新見恵理                   | 研究員   | DNA マーカーを用いたブランドカンキツ育種の効率化(2019)                                                                                     | 徳島大学                                      | P54 |
|                    |                        |       | DNA マーカーを用いた香酸カンキツ加工品からの品種識別技術の確立(2020)                                                                              | 徳島大学                                      |     |
| 徳島県立農林水産総合技術支援センター | 吉住真理子                  | 研究係長  | 高機能・高品質アラゲキクラゲ栽培技術の開発(2019～2020)                                                                                     | 徳島大学／徳島県立農林水産総合技術支援センター                   | P55 |
| 徳島大学               | 刑部祐里子                  | 教授    | 環境ストレス耐性トマトのゲノム編集による分子育種(2020)                                                                                       | 徳島県立農林水産総合技術支援センター／徳島大学                   |     |
| 徳島大学               | 瀬川博子                   | 教授    | 微量ミネラル Silicon(ケイ素)の栄養学的重要性と危険性(2020)                                                                                | 徳島県立工業技術センター                              |     |
| 徳島大学               | 田良島典子                  | 講師    | 医薬応用を目指した「ゲノム編集技術」の確立－四国5大学から広がる女性研究者のネットワーク－(2018～2020)                                                             | 高知大学／東京大学／徳島大学                            |     |
| 香川大学               | 村上あさつ                  | 病院助教  | 初期臨床研修医への「もしばなゲーム™」を用いたアドバンス・ケア・プランニング教育(2018)                                                                       | 徳島大学                                      |     |
| 愛媛大学               | ABRAZHEVICH Aleksandra | 講師    | From siliceous sediment to bedded chert sequences:A rock magnetic study of diagenetic transformations(2019～2020)     | 高知大学／同志社大学／Australian National University |     |
| 愛媛大学               | 李 賢映                   | 准教授   | アパレル業界の持続可能性向上に向けて(2019～2020)                                                                                        | 鳴門教育大学／香川大学                               |     |
| 鳴門教育大学             | 井上奈穂                   | 准教授   | 公害を題材としたESD教育の試み：教材開発の視点から(2019)                                                                                     | 愛媛大学                                      |     |
| 鳴門教育大学             | 高原光恵                   | 准教授   | 『保護者／支援者』が抱く思いと『子ども』自身が抱く思い：特別支援と哲学の観点(2019)                                                                         | 高知大学                                      |     |
| 鳴門教育大学             | 福井典代                   | 教授    | 風合いの異なる布の力学特性が衣服の見え方に及ぼす影響(2018)                                                                                     | 香川大学                                      |     |
| 徳島県立工業技術センター       | 池田絵梨                   | 主任    | 阿波晩茶の香味および機能性評価(2018)                                                                                                | 徳島大学                                      |     |
|                    |                        |       | 阿波晩茶の成分特性および香料、機能性との関係について(2019)                                                                                     | 徳島大学                                      |     |
| 徳島県立工業技術センター       | 矢野景子                   | 主任    | 徳島県産香酸柑橘類の香気成分の特徴についての検討(2020)                                                                                       | 徳島大学                                      |     |

- 徳島大学大学院医歯薬学研究部 臨床食管理学分野 講師
- 博士(栄養学)



略歴／大阪府摂津市生まれ。徳島大学栄養学科修士修了後、愛知医科大学病院で栄養士勤務。1997年より現分野の教務員、特任助教、助教を経て、2015年より現職。

## 自分軸を大切に毎日を楽しく過ごす

振り返ると、未知のライフイベントが押し寄せてきてびっくりすることが多かったように思います。ダイバーシティ（多様性）という言葉が一般化し、“正解がそれぞれ違っていい”と自信をもって思うようになってきました。自分軸でその時に感じた直感・本能に沿って目的を定め、どの方法が上手くいくか達成のための手段だけを考えて行動していると、失敗しても成功して

も楽しく感じられます。また、物事は自身のとらえ方で良くも悪くもなるので、“前向き”に考えることは、コスパ最高の大切なスキルであり、楽しく過ごすことに集中することは、自分にも周りにも良いと思います。周囲の方々の様々なサポートのおかげで研究者を続けてこれたことに感謝しています。

### 【研究テーマ】

## 「今日のごはん何食べよう？」に答えられる食卓を科学にする研究

### 1) デンシエット（Densiet）で寄り添う食事提供

密度（density）に注目した食事（diet）という意味の造語で、徳島大学初商標登録されました。カロリー密度は、食品1gあたりのカロリー（kcal）のことで、食事の食べやすさに関係します。もっと食べたい方へは、低カロリー密度を、食欲がない高齢者には、高カロリー密度で無理のない寄り添う食事を提案しています。研究から事業化まで展開し、わかりやすく・楽しく食事のコツをお伝えしています。

### 2) メタボロミクスを用いた栄養検査法の構築

臨床研究を行っている際、「何を、どのくらい、どのように食べれば、何故良いか？」という疑問に答えるには、サンプル量に制限があります。メタボローム解析を行うことで、正しい情報を理解できる可能性が高まりました。また、食事調査の際に、対象者に聞き取る必要がない栄養検査法を構築することで、将来的に遠隔栄養指導へも活用できると考えています。



▲①デンシエットロゴ ②カロリー密度（CD）に注目した人に寄り添う食事 ③カロリー密度に注目した低カロリー満腹食（講談社）④メタボロミクスを用いた栄養検査

### 研究領域



臨床栄養（肝臓、糖尿病）、メタボロミクス、食生活

### キーワード



●デンシエット ●カロリー密度  
●栄養検査 ●遠隔栄養指導

- 徳島大学大学院社会産業理工学研究部 物質合成化学分野 講師
- 博士(工学)



略歴／愛知県生まれ。名古屋工業大学工学部材料工学科卒業後、同大学院工学研究科に進学。2010年10月に徳島大学に助教として着任し、2018年4月より現職。

## 「好き」なことを私らしく、私のペースで

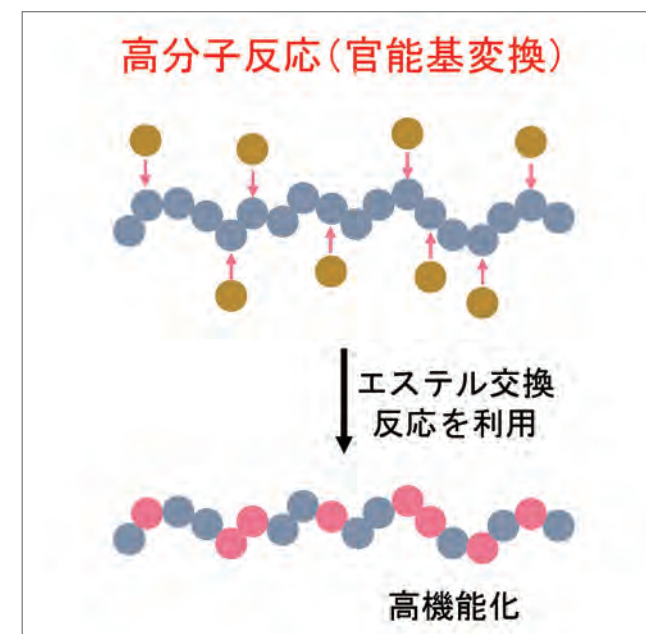
「好き」を突き詰めて研究することが可能なのが、大学に身を置く最大のメリットだと思います。また、裁量労働制であるため自由度が高く、自分のリズムに合わせて働くことができるのが良い点と感じています。その一方でペース配分に失敗すると締め切りに追われ、要返信のメールや原稿が山になるので注意が必要です。最近は特に、性別や年齢などの区別なく、働

く意欲を持つ人が活躍できるダイバーシティ推進に向けた取組が数多くあり、様々な形で支援いただいております。私が所属している理工学部は、他の学部と比べて女性・女子学生比率が低いですが、この現状を打破するべく、他の先生と協力イベントを開催したりしています。

### 【研究テーマ】

## 高分子反応を利用した機能性高分子の合成

高分子材料はあらゆる生活の場で用いられており、用途に合わせた機能性高分子の開発が求められています。構造が制御され目的の特性を示す機能性高分子を合成する手法の1つに、高分子反応があります。高分子反応により高分子側鎖に官能基を導入することで、新たな機能を付与することが可能です。高分子反応の手法の中で“エステル交換反応”は効果的な手法の1つです。一般的には酸触媒や塩基触媒が用いられますが、使用の際に過酷な反応条件が必要です。そこで私たちの研究グループでは、効果的な触媒を用いた温和な条件下での高分子側鎖のエステル交換反応について、研究を行ってきました。ポリ（メタ）クリレート側鎖変換や、ポリビニルアルコールへのアミノ酸誘導体の修飾に成功しました。効果的な触媒系を利用した高分子の側鎖変換が、機能性高分子の合成の一助となることを期待し、今後も研究を進めていきます。



### 研究領域



高分子化学、有機反応化学、機能性材料化学

### キーワード



●高分子合成 ●機能性高分子  
●アミノ酸 ●エステル交換反応 ●触媒

- 徳島大学大学院社会産業理工学研究部 応用生物資源学分野 准教授
- 博士(工学)



略歴／神奈川県横浜市生まれ。金沢大学工学部卒業後、同大学院博士後期課程修了。学位取得後、京都大学生存圏研究所ミッション専攻研究員を経て、2007年に徳島大学着任。現在に至る。

## とりあえずなんでもやってみる！

職場(大学)でも家庭でも周りの方からのサポートや手助けのおかげで、研究と育児中心の忙しくも充実した毎日をご過ごすことができています。研究が思ったように進まなかったり、予測した結果が得られないと研究のことが頭から離れませんが、これは研究の醍醐味でもあると思います。また、新しいことを思い付いたり発見したりする楽しさがあります。研究面でも家庭面で

も、「ちょっとこれは無理かな」と思うことでも「とりあえずやってみる」ことにしています。失敗もありますが案外うまくいくときがあります。育児での困りごとは周りの方のサポートのおかげでいたいことは回避して来られましたが、子どもたちの突然の体調不良への対応には困るときがあります。

## 【研究テーマ】

## 徳島県産ワカメ廃棄物からの機能性食品・医薬品原料の創製に関する研究

徳島県は鳴門市を中心にしてワカメの生産が盛んです。我々が食用とするのは、ワカメの葉の部分で茎や仮根(かこん)の部分は廃棄されます。この廃棄物の有効利用を目的として、水熱処理法の1つであるマイクロ波水熱処理を行い、有用ペプチドと有価糖の2つの付加価値物質の生産を行いました。まず、生産されるペプチドと有価糖の元となるワカメ廃棄物に含まれるタンパク質と炭水化物の含有量を調べたところ、それぞれ乾燥廃棄ワカメ全体の11%、59%であることがわかりました。さらに低温度域(55～120℃)でのマイクロ波処理では、廃棄ワカメのタンパク質当たり最大で22%のペプチドが抽出されることがわかりました。また、このペプチドの機能性試験を行ったところ、高血圧抑制作用の指標となるアンジオテンシン変換酵素阻害活性を有することがわかりました。また、高温度域(150℃～190℃)でのマイクロ波処理では、廃棄ワカメから機能性多糖であるフコイダンが抽出されることがわかりました。



▲① ②鳴門市北灘漁港でのワカメ収穫風景と廃棄ワカメ ③ ④実験に用いた廃棄ワカメとマイクロ波処理装置 ⑤廃棄ワカメのマイクロ波処理

## 研究領域



バイオマス変換工学、資源天然物利用学

## キーワード



- 未利用天然資源
- 水熱処理
- 機能性ペプチド
- 有価糖

- 徳島大学大学院医歯薬学研究部 代謝栄養学分野 講師
- 博士(栄養学)



略歴／神戸市生まれ。武庫川女子大学生生活環境学科卒業。医学と栄養学、臨床現場と基礎研究の橋渡し研究に憧れ、徳島大学大学院栄養学研究科に進学。博士後期課程時にカリフォルニア大学サンディエゴ校(UCSD) General Clinical Research Center にブレドク留学。卒業後UCSD 医学部代謝内分泌学部門にてポストドク研究員として従事。武庫川女子大学講師を経て2009年より徳島大学に助教として着任、2018年より現職。

## 「知りたい」「挑戦したい」を叶えるリサーチライフ

大学時代に、糖尿病という病気を生化学や代謝学の視点から学べた臨床栄養学の魅力に惹き込まれ、大学院に進学しました。大学院、ポストドク研究員の間には自分のやりたいこと、知りたいことを精いっぱい取り組める研究環境にあり、基礎研究の醍醐味を味わいました。留学中に2人の娘、帰国後、息子の誕生に恵まれ、3人の子育ては大学の支援制度や、

研究室の教授はじめスタッフの方々、学生さんたちにも助けられながらの毎日です。子どもたちはたくさんの我慢もありましたが、たくさんの大人に大切にされ、「知りたいことを楽しく取り組めるっていいな」というように。中学生になった娘が、「研究者になりたい」といいだし、今度はわたしが未来の女性研究者を応援する番だと思っています。

## 【研究テーマ】

## 栄養で、ヒトと科学、地域と科学をつなぐ

現在の研究は主に、栄養学のトランスレーショナル・リサーチを行っています。①がんをはじめとする治療中の味覚障害とこれに有効な食品の開発。頭頸部がん患者では化学療法中に舌の味覚受容体発現が減少することを見出し、この遺伝子を維持するのに有効な食品成分を探索するためにメダカを用いた実験系を確立しています。②重症患者における栄養管理と代謝動態の変化。わたしたちは集中治療室(ICU)において栄養管理を行う中で、ICU入室中の骨格筋萎縮が深刻な問題であることに注目し、尿中バイオマーカーを発見しました。また、侵襲時の代謝動態の変化についてもアミノ酸代謝を中心に生命が本質的にもつ生命維持機構の可能性を見出しました。③地域特産物、特に香酸柑橘類の機能性研究。徳島県はスダチやユズ、ユコウなど日本一の香酸柑橘類の生産量を誇ります。私たちは中でもユコウについて抗菌性を中心に多くの機能を見出し、大学発ベンチャー企業を設立し、研究成果に基づいた商品の展開も行っています。その他、認知症や骨格筋萎縮、代謝についての研究を細胞やマウスを用いた基礎研究から臨床試験まで行っており、栄養学の可能性を追求したいと思っています。



▲① Crisper/Cas9 システムを用いた味覚受容体ノックインメダカの作製とこれを利用した味覚障害に有効な食品成分のスクリーニング ②味覚障害患者に有効なふりかけの開発 ③重症病態におけるエネルギー代謝動態の変化 ④ICUにおけるチーム回診 ⑤香酸柑橘王国徳島が誇る4つの香酸柑橘たち ⑥大学生と考えるパートナーシップを活かした商品づくり

## 研究領域



臨床栄養学、代謝学、食品機能学

## キーワード



- トランスレーショナル・リサーチ
- 味覚障害
- がん
- 代謝
- 香酸柑橘類

- 徳島大学大学院医歯薬学研究部 口腔微生物学分野 助教
- 博士(歯学)



略歴／徳島県生まれ。徳島大学歯学部歯学科卒業。徳島大学大学院口腔科学教育部博士課程修了。歯周病を専門とする臨床系教室で大学院を修了。オーストラリアで3年間のポストドク生活を経験し、2015年より徳島大学に勤務。2018年より口腔微生物学分野の助教。

## キャリアアップを目指した第一歩

今回、徳島大学 AWA サポートセンターのダイバーシティ推進共同研究制度の助成を受けました。同世代の女性研究者との共同研究ですが、研究内容の立案、実施についてはかなり自由度が高く、現在も主体的に研究が進められています。また、この研究内容で初めて大学院生を指導する機会を得ることができました。指導方法などで戸惑うこともありますが、これ

は独立を目指した今後のキャリアパスにおいてとても有益な経験であると確信しています。資金面でのサポートは、自身の研究の幅を広げるだけでなく、これから教育・研究者を目指す学生の人材育成にも携われるよい機会になっています。個々の事情や背景を理解し、周囲と協力しながらキャリアを発展できるように努力していきたいです。

### 【研究テーマ】

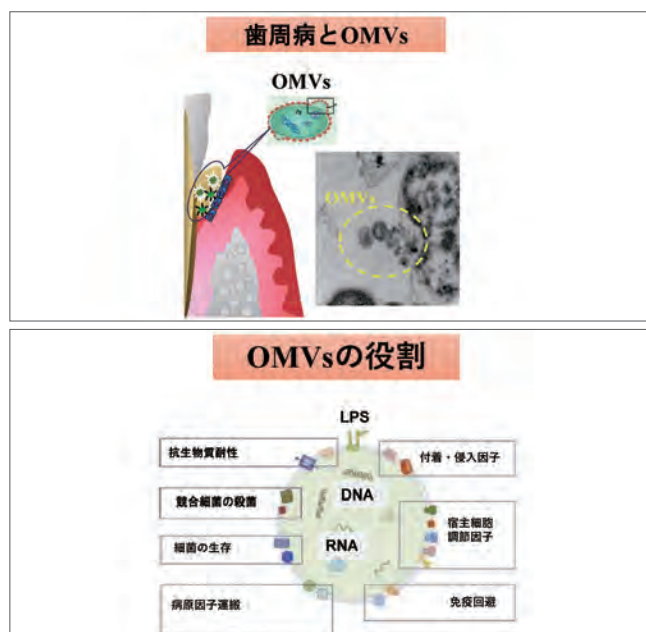
## 歯周病における慢性炎症の機序の解明

### 歯周病は口腔の慢性炎症

人生100年時代を迎えた現在、口腔衛生状態を改善し、口腔内の感染症を予防することは健康寿命の延伸に不可欠です。とくに歯周病は口腔内の慢性炎症状態であり、その重症化は糖尿病や心臓・脳血管疾患の病態にも悪影響を与えることから、適切なオーラルケアによる歯周病予防や早期治療は重要です。

### 歯周病と OMVs (outer membrane vesicles)

細菌は様々なストレス環境下に置かれたとき、脂質二重膜から構成されるメンブレンベシクル (OMVs) を産生します。細菌が産生する OMVs は、細菌の最外層構造や核酸、タンパク質、シグナル物質などを含み、細菌の病原因子の運搬や宿主への付着・侵入に関与することが報告されています。本研究では、歯周病の主な病原性細菌の1つである *Porphyromonas gingivalis* が産生する OMVs が歯周組織を構成する細胞に及ぼす影響とその細胞内機構について検討しています。この研究成果は、歯周病における慢性炎症の機序の解明の一助となり、全身の健康を維持・増進するうえで重要であると考えます。



### 研究領域



口腔微生物学、歯周病学

### キーワード



- 口腔細菌
- 歯周病
- 慢性炎症
- オーラルケア
- 全身の健康

- 徳島大学大学院社会産業理工学研究部 食料科学分野 准教授
- 博士(農学)



略歴／兵庫県生まれ。東京都立短期大学健康栄養学科、神戸大学農学部卒業。神戸大学自然科学研究科に進学。卒業後、2009年に徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部の学術研究員として採用された。2017年より現職。2013年度は英国シェディング大学にて研究の機会を得る。

## 長く続けたい仕事を見つけ出してください

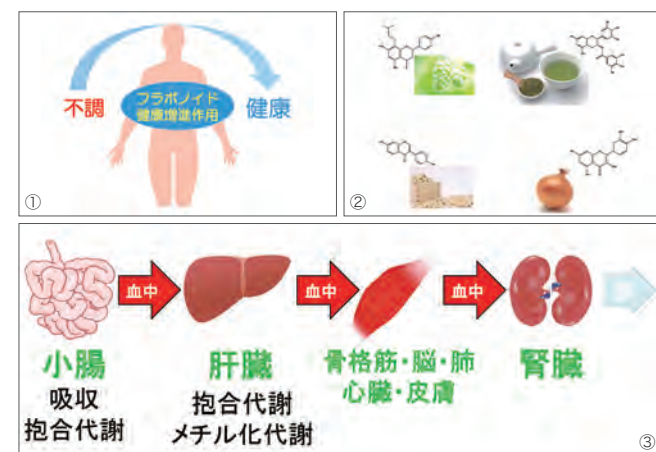
私には3歳半の娘がいます。子どもが小さい頃はよく熱を出していたので、通勤そのものができる日も多くありました。体力的なつらさと、作業がはかどらない焦りなどで、仕事を続けられないのではないかと考えたこともありま

す。徳島大学の支援や、周りの先生方、また学生さんに助けていただき、何とか折り合いをつけることができました。ある方から、「プライベートが大変な時は、仕事がしづらくなっても続けることが大事で、辞めることは避けたほうがよい」と教えていただきました。その言葉が私を支えています。迷ったときに、やっぱり辞めたくないなと思えるものを仕事の中に見つけ出すことが、一番の原動力になるような気がします。

### 【研究テーマ】

## 機能性食品成分フラボノイドの健康増進効果について

食べ物が体に与える影響に興味をもち研究を進めてきました。私は機能性食品にも利用されるフラボノイドという成分に着目しています。フラボノイドとは植物性食品にみられる代表的なポリフェノールです。これらは植物が産生する二次代謝物の一種で、diphenylpropane 構造 (C<sub>6</sub>-C<sub>3</sub>-C<sub>6</sub>) を共通構造とする一連の化合物群です。その種類は数千種以上にのぼるといわれ、種々の健康増進効果も報告されています。フラボノイドの機能性研究を進めるためには、生体利用性の解明を同時に進めることが必要であると考えられていますが、機能性評価研究に比べると生体利用性の研究例は少ないのが現状です。私はフラボノイドの健康増進効果として、骨格筋や血管の機能維持における役割を解明すべく研究に取り組んでいます。また、効率的な機能性食品の活用に向け、これらのフラボノイドの生体利用性とその調節機構を明らかにしたいと考えています。



▲①フラボノイドの摂取が健康増進に与える影響について研究している ②フラボノイドの構造と含まれる食品：構造と活性の相関を研究する ③フラボノイドの体内動態：生理活性発現との関連を研究する

### 研究領域



食品機能学、栄養機能学、天然物化学

### キーワード



- フラボノイド
- ポリフェノール
- 健康増進
- 疾病予防
- 生体利用性

- 香川大学IECMS地域強靱化研究センター 特命准教授
- 博士(工学)



略歴／岐阜県生まれ。学部卒業後建設コンサルタント会社に就職し、土木技術者に従事。社会人博士課程修了後、東日本大震災の翌年から香川大学に教員として着任。

## 自分自身を取り巻くすべての環境が研究に直結

企業で16年間の土木技術者を経て、現在は研究職に従事しています。その後ありがたいことに出産を経験しました。子どもの存在はそれまで自分が見てきた景色と全く違ったものを私に与えてくれました。研究テーマである防災分野では、多様な視点や価値観を大切にすることが重要ですが、私生活そのものがまさにそのような視点を獲得する場として研究に直結して

います。

住んでいる家や街の環境、ご近所さんとの関係性などすべてが自分や自分の家族をつくっています。また、今の環境が子どもたちの故郷になると考えると、自身の研究テーマは次世代の将来社会をつくることにつながることから、責任を感じつつも非常にやりがいを感じています。

### 【研究テーマ】

## 地域コミュニティ・企業・組織×持続可能性・多様性・関係性

小学生の頃読んだ「シートン動物記」が私の研究に対するワクワクのきっかけでした。その後、関心は動物から人にかわり、現在は地域社会や組織が研究対象です。巨大な災害や危機を乗り越え、企業や行政機関、地域コミュニティがサステナブルであり続けるためにはどのような備えや仕組みが必要なのか。持続可能な地域や組織のあり方を地域の方とともに問題解決プロセスを共有しながら取り組むアクションリサーチで実践しています。写真①は津山市城西地区で実践している地区防災計画のワークショップの様子です。地域に暮す全ての住民がともに取り組めるようなプロセスを大切にしています。写真②は2018年7月豪雨で被害を受けた倉敷市真備町で介護事業者と地域の方と取り組んでいる避難機能付き共同住宅と設置したスロープです。逃げられない方を1人でも減らすために、全ての方に開かれた場所づくりを目指しています。



▲①多様性と継続性が求められる地区防災計画の取組（「平成28年度内閣府地区防災計画モデル事業」にて）②避難機能付き共同住宅 ③避難機能付き共同住宅のスロープ

### 研究領域



地域防災、危機管理

### キーワード



- 事業継続計画（BCP）
- 地域継続計画（DCP）
- 地区防災計画

- 香川大学医学部看護学科 教授
- 博士(保健学)



略歴／徳島県生まれ。徳島大学医学部附属看護学校卒業。京都大学医学部附属病院で看護師として勤務した後、徳島に戻り、徳島大学医療技術短期大学の助手、その後徳島大学医学部看護学科の講師・准教授として徳島大学で21年勤務。その後徳島大学総合科学部に進学し修士を、さらに広島大学医学系研究科にて博士を取得。2016年4月に香川大学教授に着任。

## 仕事と学業と研究を両立しながらの生活

看護学校を卒業後は、仕事をしながら学位を取得する生活が10年以上続きました。学業との両立をしながらの生活であったことを振り返ると、純粋に学生生活を満喫することはなかったが、気持ちの切り替えや多重業務をこなす訓練になりました。私にとって学業の中に研究が位置付けられてきたので、研究することで新しい発見があり、さらにそのことが進学への

意欲につながったと思います。20代、30代をどう人生設計するかが大切で、自分の能力に限界を決めないで慎重になりすぎず、チャレンジしてほしいです。最後に、徳島大学糖尿病対策センターとの共同研究を、香川大学に異動してから継続することができたこのダイバーシティ研究環境調和推進プロジェクトの支援に感謝しています。

### 【研究テーマ】

## 日常生活における活動とサルコペニア予防に関する研究

本研究の目的は、筋肉量の低下の実態を把握し、身体活動・健康習慣との関連について明らかにすることです。対象者は、Tokushima Cohort Study に協力している従業員。身体組成計を用いて、体重、BMI、体脂肪率、筋肉量を測定し、さらに身体活動調査と食事・体重に関する健康習慣調査を実施しました。筋肉量の評価基準は、四肢骨格筋指標および下肢骨格筋指標を用いて評価。分析は、筋肉量低下と関連のあった要因を独立変数、筋肉量低下の有無を従属変数とし、多重ロジスティック回帰分析を実施しました。四肢の筋肉量は、職場や家での座位時間、休日家での座位時間、休日睡眠時間の長さが、筋肉量低下に関連していること、また下肢の筋肉量では、休日の車利用日数の増加、運動・レジャーなど外での余暇の身体活動量の増加が、筋肉量の低下しにくさと関連していることが明らかとなりました。



▲①研究結果の一部 ②身体組成計 ③身体活動質問票

### 研究領域



成人看護、リハビリテーション看護、  
周術期看護、ケア

### キーワード



- 身体活動
- 健康教育
- 重症化予防
- 回復支援
- 筋肉評価

- 香川大学創造工学部 先端材料科学領域 准教授
- 博士(学術)



略歴／福岡県生まれ。熊本大学大学院自然科学研究科博士後期課程修了。修了後、企業、国内大学、海外（ドイツ）にて博士研究員として従事。2009年9月に熊本大学大学院自然科学研究科に助教、2013年10月より香川大学に講師として着任。2015年4月より現職。

## 〇〇の気持ちになって〇〇する＋まずは試してみましょう

「分子の気持ちになって材料を作る」というコンセプトで、分子やナノスケールの薄さのナノシート材料など、直接眼で見ることはできないものを対象とした研究を行っています。特に、モノとモノが接する界面での現象が材料では重要で、界面はバルクより多くの要因を考える必要があります。それら要因のバランスを想像しながら対象となる分子の環境を構築、新しい

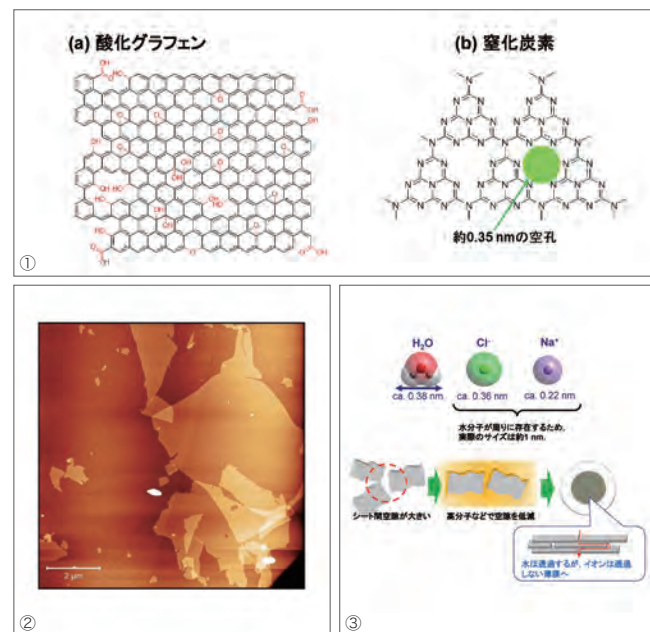
材料を作り出すことを行っています。実際に行ってみないとわからないことが多い研究ですが、いろいろ試せることの楽しさ、意外な組み合わせでの発見などがあります。

どういった環境、立場でも「〇〇の気持ちになって物事を考える」ということは様々なことを動かす要点と思っています。自分以外の視点で考えることで、新しい気づきも見い出せます。

### 【研究テーマ】

## ナノシート材料を用いた分離膜に関する研究

窒化炭素は可視光応答性光触媒として知られ、ユニークな窒素豊富な骨格を有する半導体性の高分子です。グラフェンに似た二次元構造であることから、前述の高機能光触媒の他、太陽電池など電子材料などへ応用も期待されています。我々は親水性の高い単層構造である酸化グラフェン（写真①a及び写真②）や前述の窒化炭素（写真①b）というナノシート材料を利用した高機能分離膜（分離における省エネやメンテナンスフリーなどが期待できる薄膜）の開発を目指しています。特に近年水資源不足から注目を集める海水淡水化のための逆浸透膜（海水中のイオンを除去する薄膜）を多孔性ナノシートを利用して開発することを目指しています。現在、ナノシート間をつなぐ（接着する）分子による薄膜化への影響などを明らかにする研究を行っています。



▲①酸化グラフェン (a) 及び窒化炭素 (b) の構造式 ②酸化グラフェンのAFM像 ③本研究の目的

### 研究領域



界面科学、ナノ材料化学、高分子材料

### キーワード



- ナノ材料
- 海水淡水化
- 分離膜
- 多孔性材料
- ナノシート

- 香川大学大学院医学系研究科 臨床心理学専攻 心理学分野 准教授
- 博士(心理学)



略歴／徳島県生まれ。福山大学人間文化学部心理学科卒業後、臨床心理士資格取得を目指して、広島大学大学院教育学研究科心理学専攻博士課程前期へ進学。その後、同大の博士課程後期を修了し、母校である福山大学に助教として着任。比治山大学健康栄養学部管理栄養学科准教授を経て、2018年より現職。

## ワークライフバランスの難しさと楽しさ

博士課程修了後、細々と研究を進め、出産・育児のため2018年度は研究を中断しました。産後、母親業の多さに驚き、自分の時間が持てないことに歯がゆさを感じることもありました。その後、産後半分で職場復帰しましたが、1年間は頭が思うように働かず苦労しました。しかし、ダイバーシティ研究環境調和推進プロジェクトの研究補助者雇用や共同研究助成の

お陰で、研究を何とか進められています。現在は、限られた時間で研究するためか、産前よりも効率が上がった気がします。今は育児ストレスの改善・予防にも関心が向いています。自分の生活と研究がリンクし、日々の疑問を学術的に解明できるところが研究の面白さだと思っています。

### 【研究テーマ】

## 抑うつ改善のための心理教育プログラムの開発 肥満の注意に関する心理学的研究 等

### 抑うつ改善のための心理教育プログラムの開発

博士課程前期以降、科学研究費補助金を得て、抑うつ改善のための心理教育プログラムを大学生、うつ病患者、若年労働者を実施してきました。2019年度は、ICTを活用して、WEB上で受けられる心理教育プログラムの開発と効果を検討しました。

### 肥満の注意に関する心理学的研究

ここ数年は、科学研究費補助金を得て、肥満の方が高カロリーな食べ物に注意を向けやすい、という視線の特徴を実験的に明らかにしようとしています。今後は、基礎的なデータを踏まえ、肥満の方の摂食行動の変容に関する研究を進めていきたいと思っています。

### コロナウイルス感染症による心理的影響の解明

サイドワークとして、所属学部の先生方とチームを組み、コロナウイルス感染症が私たちに与えた心理的な影響について、質問紙調査やインタビュー調査から明らかにしようとしています。感染症への心理的対策や予防策を提案したいと思っています。



▲①抑うつ ②肥満 ③感染症

### 研究領域



臨床心理学、健康心理学

### キーワード



- 抑うつ
- 肥満
- 注意バイアス
- 自己認知
- 健康開発



略歴／中国内モンゴル生まれ、医師である母親と研究者である父親の影響により、幼いころから大学で研究する仕事を目指す。熊本大学薬学部卒業後すぐに副手として福岡大学医学部に就職し、助教、講師を経て、2019年に香川大学医学部自律機能生理学に准教授として着任した。

### 早い段階で将来像を立て、特別なオンリーワンを目指して

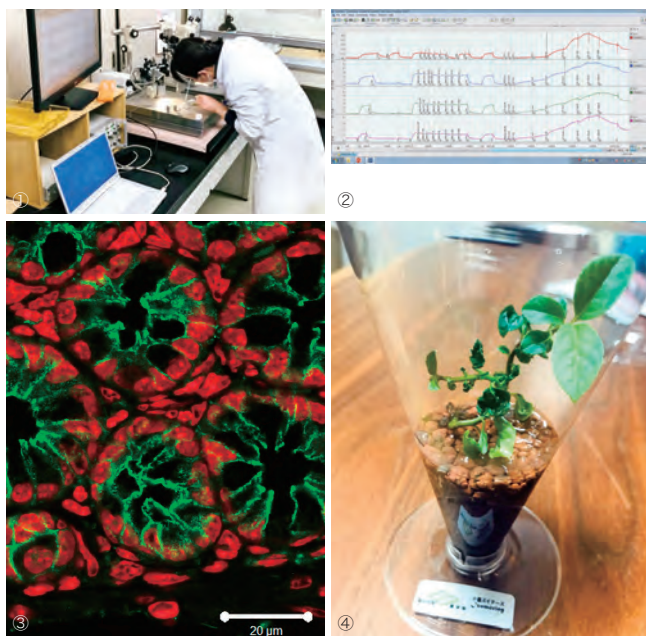
自身の人生において、早い段階で将来像を立てることが大切だと思います。仕事に何を求め、キャリアをどのように描き、人それぞれ違いがあって当然です。もし将来女性研究者を目指す女子学生がいましたら、是非、次の言葉を送りたい。「自分が将来活躍する女性研究者になるように、家庭・教育・研究環境を自分で発見・構築し、目的を達成できる仲間・人生の伴侶・

上司を自ら見つけてください!」。母集団の中で、大勢と異なる性別・年齢・文化・言語・考え方を持つことは素晴らしいことであり、協調性を持ちながら、固定観念にとらわれず、折れない強い芯を持った特別なオンリーワンであるように心がけています。

#### 【研究テーマ】

### 肺高血圧や炎症性腸疾患の病態生理の解明と新規治療法の開発

私は現在、肺高血圧と炎症性腸疾患の二つの難治性疾患の病態生理の解析や治療法の開発に関する研究を行なっています。肺高血圧は肺細動脈が肥厚し、肺動脈圧が上昇する難治性疾患であり、炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎とクローン病）は免疫機構の異常による消化管炎症を指し、ひどい場合は線維化や瘻孔などの組織病変が見られ、潰瘍性大腸炎による発癌も大きな問題です。我々の研究グループはこれらの疾患で見られる組織リモデリングに関連する分子の研究を行っています。細胞培養や遺伝子改変動物（アメリカコネチカット大学との共同研究）を用いた病態モデル、患者由来の臨床標本を用いた評価（香川大学病院、岡山大学病院との共同研究）、腸内細菌細菌叢の解析（内モンゴル農業大学との共同研究）などの研究を行っています。



▲①肺動脈張力測定実験の様子 ②肺動脈張力実験の結果例 ③腸粘膜の免疫染色の結果例 ④最近の趣味（ズイナの栽培）

#### 研究領域



分子生理学、病態生理学、薬理学

#### キーワード



●肺高血圧 ●炎症性腸疾患  
●組織リモデリング ●線維化狭窄



略歴／東京都生まれ。東京外国語大学卒業。大阪外国語大学（現大阪大学）大学院外国語学研究科修士課程（日本語学専攻）修了。1994年10月香川大学教育学部に着任し、2013年4月より教授。

### 自分も周囲も大切に

香川大学に来て、四半世紀余が過ぎました。1994年秋に赴任し年が明けて阪神淡路大震災、地下鉄サリン事件がおこり、めまぐるしく世の中が動きました。その後アメリカ同時多発テロ、東日本大震災があり、現在の新型コロナウィルスもそうですが、そのときは「こんなとんでもないことがあるなんて」と思っても、しばらく経つとさらにそれを越えることが起こって

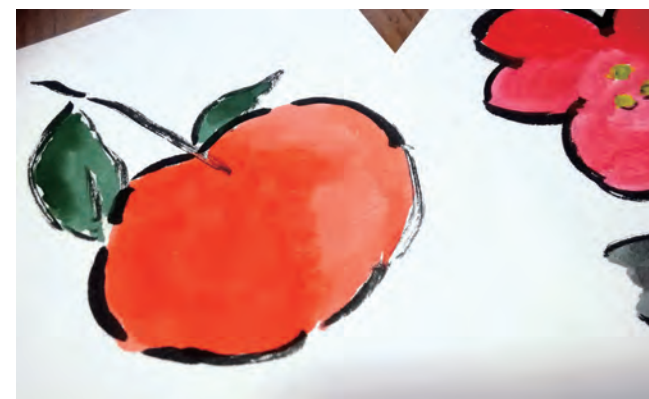
います。先が見えない世の中だからこそ、自分が何をしたいのか、どう感じるのかという点を大切にすべきだと思いますし、また周囲の人の支えがなければやっていけないと感じています。私もこれまで多くの方に助けられました。私もほかの方を少しでも支えることができればと思います。

#### 【研究テーマ】

### 話し言葉のイントネーション 外国人住民・児童生徒の支援

日本語は最後まで聞かないとわからない、とよく言われます。とはいえ、実際は文の途中で否定とむすびつく表現があったり、話し始めのフレーズでほぼ予測できることも多く、実際の話し言葉ではさらに文末表現とそれにとまなうイントネーションが大きな役割を果たします。終助詞の「ね」一つをとっても音調によってニュアンスが変わってきます。標準語でなくても、たとえば、香川方言の「な」も世代によって、文末に使うかどうかも含めて音調に対応する意味・機能に差がみられ、現在その調査を行っています。

日本語学を専門としている関係で、これまで外国語としての日本語教育の仕事にかかわる機会が多かったのですが、最近は日本で生活する外国人住民の支援や子どもたちの教育に関わる研究も行っています。



#### 研究領域



音声学、日本語学、言語学

#### キーワード



●イントネーション ●文末  
●アクセント ●方言 ●話し言葉

- 香川大学農学部 植物科学領域 教授
- 博士(農学)



略歴／愛知県生まれ。香川大学教育学部卒業。植物の神秘に興味を抱き、名古屋大学大学院農学研究科に進学、博士課程卒業後香川大学農学部に着任。2014年2月より教授。

## 趣味と研究の狭間で

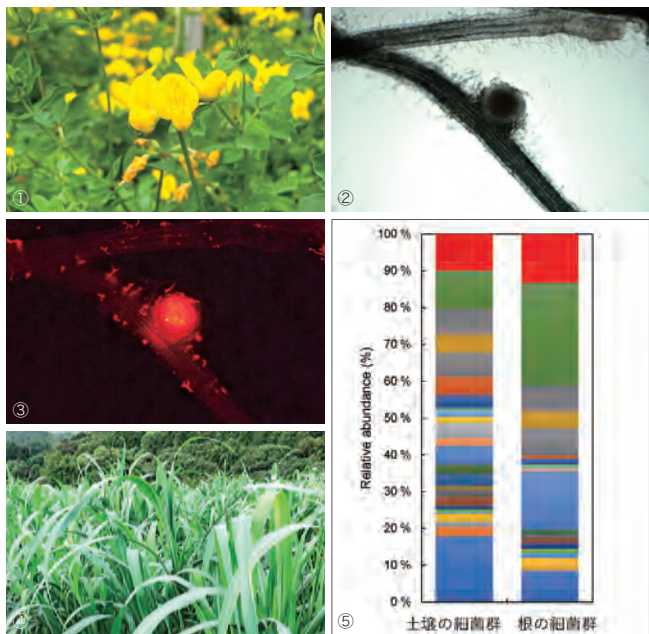
最近の私の趣味は、料理をして美味しいものを食べることです。研究は料理をすることとよく似ています。私たちは大学でプロトコル（料理本のようなもの）を片手に薬品の重さを正確に測定して研究を行います。研究がうまくいかないと試薬を作り直したりアレンジします。予想通りの結果が出るととてもうれしいです。私は子どもの頃料理が苦手でしたが、研究が好き

で料理も好きになりました。料理が好きな皆さん。是非とも研究の世界へ！料理が苦手な皆さん。面白い研究の世界があなたを待っています！

## 【研究テーマ】

## 植物と微生物の共生

マメ科植物は、根粒菌とよばれる土壌微生物と共生すると根に「根粒」という家を作ります。マメ科植物は根粒菌のために家を作るだけでなく、食べ物（光合成産物）も提供しています。その代わり、根粒菌は窒素化合物（アンモニア）を合成して植物に提供しています。根粒菌の恩返しです。サトウキビは根の細胞と細胞の間に様々な土壌微生物を住まわしています。そして土壌微生物による恩返しが行われます。皆さんは、和三盆の原料が香川県と徳島県県境のサトウキビであることを知っていますか？私たちは香川県のサトウキビにどのような土壌微生物が住んでいるのか調べています。するとこれまでに報告がない新しい微生物がたくさん住んでいることが明らかになりました。サトウキビに住んでいる土壌微生物はアンモニアの他に何を恩返ししているのでしょうか。



## 研究領域



植物栄養学

## キーワード



- マメ科植物
- 根粒菌
- 共生
- サトウキビ
- 微生物

- 香川大学医学部 病理病態・生体防御医学講座 腫瘍病理学 教授
- 博士(医学)



略歴／香川県生まれ。坂出高等学校卒業。1998年に香川医科大学卒業後、循環器内科に入局し、同大学院に進学。大学院修了後、病理学の道に進むことに決め、2003年より香川医科大学腫瘍病理学にて研究を開始。2007年に日本医科大学、2013年に東京都健康長寿医療センターにて、病理診断と病理研究に従事した。米国のマサチューセッツ総合病院に短期留学。2019年4月より香川大学に着任。

## 継続は力なり

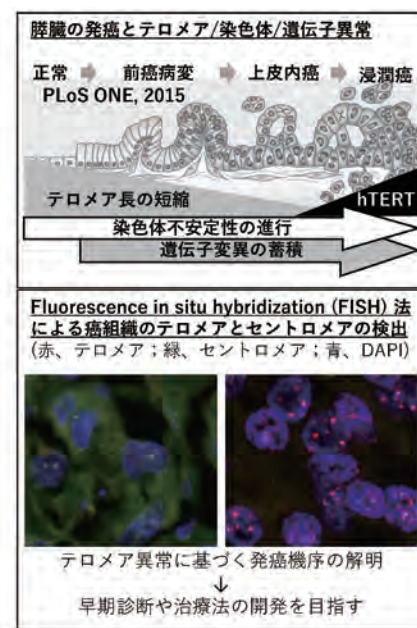
臨床の業務と違い、実験は、先延ばしにできたり、手間を省いたりできるため、意欲を保ち続けることが難しいと感じることがあります。研究意欲維持のため私が心掛けていることは、①誰かと一緒にやること、②様々なことをやってみること、③目標を決めることです。①は、実験・解析・論文の抄読・執筆等を1人でやらずに誰かとやるように心掛けています。②は研究だけでなく、診断のカンファレンスに参加したり、

研究に直接関係のない業務をやることで、気分をリフレッシュできます。③は例えば、先行きが不透明な研究の演題を学会に登録し、学会発表までに何とか結果を間に合わせるように自分を追い込みます。研究に最も大切なことは、自分にできることをやり続けることであり、それぞれの研究者の背景や考え方、環境の違いが個性的な研究につながっていくと思います。

## 【研究テーマ】

## テロメア病理学

テロメアは染色体末端の保護装置であり、細胞分裂のたびにテロメアの長さが短くなるため、命の回数券と呼ばれます。私は、ヒトの病理検体（病理検査のために採取される病変の一部）を用いて、テロメアの解析を行い、細胞の形や構造の変化とテロメアの変化との関連を調べています。テロメアは、核の中にあるTTAGGGの繰り返し塩基配列から成るDNAの一部です。テロメアの変化が目に見える形となって病理標本上に表れてくること、さらには癌をはじめとして、加齢に伴う様々な疾患の発症の原因となることに強い興味を感じ、研究を始めました。正常細胞が癌細胞に変化していく過程において、テロメアの異常や細胞の形・機能の異常が積み重なっていく機序を、明らかにすることで、癌の早期発見や新しい治療法に結び付く研究成果を獲得することを目指しています。



## 研究領域



病理学、腫瘍学、消化器疾患

## キーワード



- テロメア
- 臓器
- 染色体異常
- 病理
- 癌

- 愛媛大学大学院農学研究科 食料生産学専攻 准教授
- 博士(農学)



略歴／大分県生まれ。九州大学大学院生物資源環境科学部環境科学専攻博士課程修了。修了後、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構生物系特定産業技術研究支援センター 特別研究員として従事。2009年より愛媛大学に着任し、2019年より現職。

## ワークライフバランスをとって、日々楽しく

大学での研究者生活が10年を経過し、ここ数年でようやく楽しいと思えるようになってきました。

大学博士課程を修了し1年弱ほど農研機構の特別研究員として仕事をしましたが、愛媛大学に赴任してからが、初めて自らの責任で実施する研究教育活動がスタートしたといって過言ではないかと思います。最初のうちは、研究環境

を整えたり、新たな研究テーマを手探りで始めたり、そうこうしているうちに子どもも生まれ、あっという間の10年でした。

下の子が今年小学生になります。ここ数年で、仕事と家庭とのバランスのとり方がわかってきて、今が一番楽しく仕事ができています。楽しく仕事をするには、ワークライフバランスが大事だということを痛感しています。

### 【研究テーマ】

## 農業機械の電動化で省エネ・超省力農業へ

温室効果ガス排出削減に向けて、農業機械の電動化にも取り組んでいます。電動化によって、振動や騒音も大幅に低減され、とても快適な機械操作が実現できますが、「振動」や「騒音」は、機械の状況を人間が五感で検知するのにとても重要な情報でした。低振動・低騒音になったことで、機械異常を検知できず、非常に大きな負荷がかかり機械の故障が発生したり、農作業精度が低下する要因にもなります。人間の五感に変わるトラブル回避技術を構築することで、電動農業機械の実用化につながります。この技術は、農業機械の自動化や農業ロボットに対しても応用でき、人出不足の農業現場での超省力化技術として期待できます。愛媛県など瀬戸内では、急傾斜農地の割合が他の地域よりも高く、農作業は非常に過酷で危険を伴います。こういった場所こそ、農業ロボットが活躍すべきところですが、人間が丁寧にやってきた栽培管理作業をロボットでも確実に実施できるようにするには、栽培様式から見直し、機械適応性の高いものにする必要があり、急傾斜地農地の持続可能な生産を支えるための技術開発を行っています。



▲①企業・愛媛県と共同開発した電気トラクタの実験 ②急傾斜柑橘園でのドローンによる農業散布

### 研究領域



農業機械、農業ロボット、  
農業データサイエンス

### キーワード



- 電動農業機械
- 農業機械の自動化
- 農業ロボット
- 超省力化
- 持続可能な農業生産システム

- 愛媛大学教育学部 社会科教育 准教授
- 博士(地理学)



略歴／岐阜県生まれ。名古屋大学大学院文学研究科終了後、2000年に愛媛大学着任。2004年より現職に至る。

## サードプレイスとしての地域社会

私が住んでいるのは松山市のなかでも少子高齢化で寂れかけた地区ですが、訪れると店主や常連客が「やあ、くーこさん」と声をかけてくれるようなカフェやビストロ、じゃこ天屋などが自宅から徒歩圏内にいくつかあります。職場では育児中の私に様々な配慮をしていただきましたが、子どもが小さい頃は帰宅するとワンオペ育児で、必ずしも自宅が安息の場とは言えな

い状況でした。日々忙しいなか、徒歩圏内に子連れでも出かけることができる居心地の良いサードプレイス（自宅、学校・職場と異なる居場所）があることで、私の精神や社会感覚のバランスが取れている気がします。「研究が生きがい」と没頭するののも一つの生き方ですが、地域活動や趣味に時間が割けるような働き方が保証された上での選択かとも思います。

### 【研究テーマ】

## 持続可能な社会を実現する社会科授業の開発：水俣地域および水俣病事件を教材として

### ESD（持続可能な開発のための教育）と地理教育

今日の地理教育にはこれまでの地理的ものの見方・考え方による社会認識の形成だけでなく、持続可能な社会の実現に向けた課題解決能力の育成が求められています。世界および日本の諸地域の多様性を尊重しながら、地域・国家・地球的な課題について、様々な主体と協働して解決に取り組む態度を育てる必要があります。

### 水俣病事件の今日的意味と社会科教材化

水俣病事件は公式確認から60年が経過しましたが、健康被害の救済を受けていない被害者は未だ数万人と推測され、企業倫理の問題、国への責任追及、救済制度の欠陥、被害者や水俣への差別と偏見、地域社会の再生など、多くの課題が残されています。水俣病の原因究明と責任追及には当事者の奮闘とともに地域内外から多くの支援があり、水俣市の地域コミュニティ再生の取組、化学物質の薬害への反省からの減農薬柑橘栽培など、水俣病に関わる人々の経験を教材とすることで、より良い社会への行動様式の転換や課題解決に取り組む態度の育成を図ることができると考えています。



▲①家族写真 ②デブねこちゃんと ③エコパーク水俣 ④水俣授業資料

### 研究領域



自然地理学、地理教育、ESD

### キーワード



- ESD
- SDGs
- 水俣病事件
- 課題解決能力の育成
- 地理教育

- 愛媛大学大学院理工学研究科 助教
- 博士(工学)



略歴／京都府生まれ。大阪府立大学工学部応用化学科卒業。大阪府立大学大学院工学研究科物質・化学系専攻応用化学分野に進学。修了後、第一工業製薬株式会社研究開発本部に4年間勤務した後、退職。出身の大阪府立大学で博士後期課程に進学。学位取得後は産業技術総合研究所触媒化学融合研究センターで2年間勤務。2017年より愛媛大学に着任。

## 限りある時間を仕事に家庭に有効に

2017年に愛媛大学に着任し、有機合成の経験を活かした有機機能性材料の創出に携わっています。私生活では約2年前に出産し、仕事・子育て・家事に奮闘する中、周囲の先生方からの日々のサポートや各種支援にはとても助けられています。特に、ダイバーシティ推進共同研究制度は、他大学・異分野の先生と共同研究を進めるきっかけとなり、MOFという私にとっ

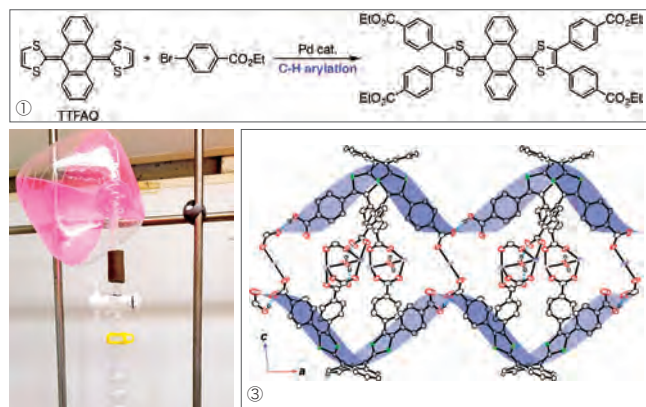
て未知の分野であった研究に参画することができました。このようなサポートを受けられたことに感謝し、これからも仕事にも私生活にも尽力したいと思っています。

## 【研究テーマ】

## 酸化還元活性な有機配位子を有する MOF の創成と二次電池電極活物質への展開

近年、リチウムイオン二次電池（LIB）の正極活物質として、環境負荷が小さく、多彩な分子設計が可能な有機材料が注目されています。特に、架橋有機配位子と金属イオンから形成される多孔性物質である金属有機構造体（MOF）は、組み合わせる有機分子や金属イオンによって無数のバリエーションの構造を作り出すことができ、LIBの電極材料への応用も期待されています。

本研究では、酸化還元活性な1,3-ジチオール環を有する分子を架橋有機配位子として用いたMOFの作製に取り組み、LIBの電極材料への応用を目指しています。TTFAQと呼ばれる分子の末端を、アリール基で修飾することによってMOFの有機配位子前駆体を合成しました。それを硝酸コバルト（II）六水和物と反応させることで、二重螺旋構造のMOFを作製することに成功しました。今後、電池材料への可能性を展開したいと考えて研究を進めています。



▲①有機配位子前駆体の合成スキーム ②配位子合成の様子 ③得られたMOFの構造

## 研究領域



有機合成化学、有機機能性材料、有機構造化学

## キーワード



●有機合成 ●触媒化学・酸化還元活性分子  
●金属有機構造体（MOF） ●二次電池正極材料

- 高知大学教育研究部 人文社会学系教育学部門 家庭科教育コース(保育) 講師
- 博士(学術)



略歴／富山県生まれ。京都教育大学教育学部卒業、富山大学人文学部人文学科3年時編入、奈良女子大学博士後期課程社会生活環境学専攻共生社会コース修了後、國立台灣大學文學院語文中心中國語科（2008年度、台北駐日經濟文化代表処（台湾教育部）教育部華語文獎學生）、大連外国語大学日本語学院専任外籍教師、奈良女子大学アジア・ジェンダー文化研究センター 特任助教を経て、2019年4月より現職。

## 有縁分 (you yuan fen)

中華圏では、「有縁分 (you yuan fen)」という言葉をよく使います。日本語でいうと「縁がある」という意味になります。海外に全く興味がなかった私が、縁によって台湾へ留学し、縁によって中国の大学で教員をし、縁によって高知大学で働いています。縁は非常に不思議なものだなとつくづく思います。縁は、研究において新たな視点をもたらしただけでなく、海外で

いろんな人々の助けを借りて「生き抜く力」をも私に与えてくれました。ピンチに陥ったときほど、人を介して様々な縁がもたらされるように感じます。そのためか、研究や生活に苦労を感じたことはありません。「しんどい」と思った時こそ、そばにいてくれる他者に対する謝意を言葉にして表出すること、そして縁の力を強く信じることを海外生活から学びました。

## 【研究テーマ】

## 現代中国における早期教育の隆盛と家族・ジェンダー、台湾の子育て支援政策と少子化、多文化共生

現在、東アジア社会一帯に少子高齢化の波が押し寄せています。それに伴い、保育や子育て、そして家族観・ジェンダー観が変容しています。その変容の一端を、中国の早期教育、台湾の子育て支援政策の様々な事象から明らかにしています。例えば、近年、中国においては、比較的若い世代の親たちが早期教育に興味を持ち始め、子どもを教室に通わせ始めています。早期教育の教室でどんなことを教えているのか、また親は何を子どもや教育に期待しているのか等を調査しています。私の主な調査フィールドは、中国、台湾ですが、常に日本の事象と比較しながら捉えることに努めています。国籍、民族、宗教、性別等の多様な背景を持つ人々を受け入れ、「共生」の道歩んでいる台湾の政策を調べることによって、日本のこれからはどうなっていくのか、さらに日本の教育界において「多文化共生」は今後どのように進行していくのかにも興味を持っています。



▲①北京で開催された早期教育コンテストの様子 ②大連の幼稚園 ③台北の親子館地図 ④台北の企業内託児所 ⑤台北 MRT 車内

## 研究領域



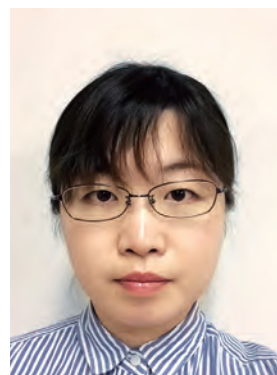
保育学、家族関係学、家族社会学、ジェンダー論

## キーワード



●保育 ●子育て ●アジア  
●ジェンダー ●多文化共生

- 高知大学教育研究部 総合科学系 複合領域科学部門（理工学部化学生命理工学科 専任）助教
- 博士(工学)



略歴／愛媛県生まれ。北海道大学理学部生物科学科（高分子機能学）を卒業。北海道大学大学院生命科学院修士課程、京都大学大学院工学研究科博士後期課程を修了。その後、北海道大学電子科学研究所・創成研究機構 博士研究員を経て、2017年4月より現職。

## 責任と楽しさを感じる日々

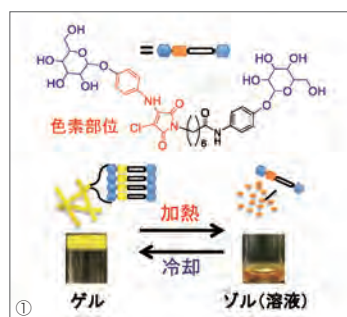
現在、高知大学で教育・研究に取り組んでいます（愛媛出身ですのでJターン就職ということになります）。専門は有機合成化学をはじめとする化学関連分野で、新しい分子を設計・合成しています。現所属では助教を含む全教員が研究室主宰者（PI）としての雇用であり、研究室の運営（研究立案、学生指導、研究資金獲得・管理など）が大きなウエイトを占め

ています。責任をとまなう立場でプレッシャーもありますが、学生とともに好きな研究に取り組むことができる日々はやりがいがありとても楽しいです。研究室を運営するうえで重要（大変）なのが研究費の獲得です。その点において、本支援制度は大きなサポートとなっており感謝しています。

### 【研究テーマ】

## 生体分子に応答して色調変化を示す超分子ヒドロゲルセンサの開発

上記研究テーマについて本支援制度に採択いただき、愛媛大学農学部の米山香織助教と共同研究を行っています。「超分子ヒドロゲル」とは、両親媒性分子が集合することで水を閉じ込めたゼリー状物質です。本研究では、生体内に存在する分子（生体分子）を検出することができる超分子ヒドロゲルの開発を目指しています。特に、特定の生体分子に反応して「色が変わる」超分子ヒドロゲルに着目して研究を行っています。この「色が変わる」というのがポイントで、筆者独自の研究となっています。ちなみに、一般的な超分子ヒドロゲルはゲル状態と溶液状態との行き来（ゲル-ソル相転移）を示すのみで、色が変わる例はほとんどありません（ゼラチンや寒天を加熱-冷却した時の変化をイメージしていただくといいと思います）。これまでに、糖リン酸化酵素、ペプチド加水分解酵素、アミノ酸などに応答性を示すゲルの開発に成功しています。



▲①色が変わる超分子ヒドロゲルの例 (R. Ochi *et al.*, *Soft Matter*, 2020, 16, 7274)  
②学会でのひとコマ（本研究テーマに関する発表で優秀ポスター発表賞を受賞）

### 研究領域



超分子化学、糖質関連科学、有機合成化学、錯体化学

### キーワード



●超分子ヒドロゲル ●超分子金属錯体  
●糖質 ●ペプチド ●バイオマテリアル

- 高知大学教育研究部 総合科学系 複合領域科学部門 助教



略歴／フランス・プロバンス出身。フランス国立ボー・エ・デ・ベイ・ドゥ・ラドゥール大学応用科学専攻、卒業（PhD）。2013年より高知大学海洋コア総合研究センターにポスドクとして着任。2016年4月より助教。

## Being a foreign researcher in Japan: a life choice

I first joined Kochi University as a postdoctoral researcher. This was my first time in Japan and I immediately liked the place. Not only the paleomagnetic laboratory is the best one in Japan, it is also well located between mountains and ocean. When I arrived, I did not speak a word of Japanese language and was unfamiliar with the culture. The staff here were very helpful and supportive.

They helped me a lot, and still do. After many years at the university, I feel like I am now part of a community. Being a researcher requires to be committed, and it is therefore crucial to have a good work-life balance. I like spending my time hiking in beautiful Shikoku Mountains to unwind and relax. I miss my family and friends back home, but I have found a second family here in Kochi.

### 【研究テーマ】

## Iron sulfides in the Sanbagawa belt, central Shikoku, Japan

My interest in iron sulfide minerals has started during my PhD thesis. Back then, I was investigating the appearance of pyrrhotite (iron sulfide) in low grade metamorphic rocks in the French Alps and the Appalachians. The goal of my current research project is to investigate the variations in rock magnetic properties and mineralogy in metamorphosed sediments in the Sanbagawa belt, central Shikoku. Iron sulfide assemblages are useful indicators of temperature and pressure conditions experienced by sedimentary and metamorphic rocks. My collaborators and I focus particularly on pyrrhotite and its distribution in different metamorphic zones.

To achieve our objectives, we collected samples along the Asemi River in Motoyama town. Our first rock magnetic results are exciting and promising and we look forward to the next step.



▲① field trip: Kars Myriam and Hashimoto Yoshitaka (Kochi University) ② field trip: Asemigawa (Motoyama town, Kochi Prefecture) ③ field trip: sample ④ field trip

### 研究領域

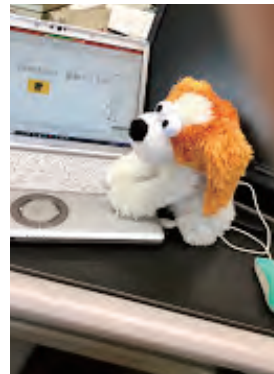


地球科学、環境磁気学、earth science、environmental magnetism

### キーワード



●Magnetic mineral diagenesis ●iron sulfide  
●pyrrhotite ●sedimentary rocks



略歴／広島県生まれ。広島修道大学人文学部卒業。高等学校勤務を経て、公益法人において、不登校の研究に従事する。兵庫教育大学大学院学校教育学研究科修了。2015年より高知大学に着任し、2018年4月より、准教授。

## 自分の研究を誰かに伝えることによって、今まで見えなかったことに気づきます

研究に没頭していると、研究以外のことが見えなくなることがあります。そうすると、自己の研究について、視野狭窄を起こしてしまいます。そんなときは、自分の研究について、誰かに話してみましょう。研究を誰かに伝える過程において、言語化することによって今まで見えなかったことに気づくのではないのでしょうか。その気づきによって、視野狭窄から抜け出せることがあ

ります。私は、子育て中に、保育園の送り迎えの車の中で、小さな子どもを相手に、自分の研究について話をしていました。自分で言葉にすることによって、新たな気づきが見え、研究の盲点を見出したこともあります。

### 【研究テーマ】

## 会議アプリツールを用いたオンライン授業におけるアクティブ・ラーニングの授業デザインと Tips の開発～教育効果を上げる教授モデルの開発

本研究は、会議アプリツール（例えば、Zoom）を用いて、オンライン授業において、学生の主体的な学びを促進することを目的としてアクティブ・ラーニング型の授業デザインと Tips の開発を行っています。対面授業からオンライン授業に移行されても、学生の学びを止めることはできません。したがって、本研究では、これまでアクティブ・ラーニングで培ってきた主体的な学びを継続させるために、会議アプリツール（Zoom、Teams 等）を用いてオンライン授業をつくるための Tips の開発を行っています。この研究では、四国内の FDer が集まり、一緒にオンライン研修を受講し、オンライン授業によるアクティブラーニングの Tips を考えました。具体的には、ペアワークやグループワークなどを会議アプリツールを用いて行う手法を開発しています。



### 研究領域

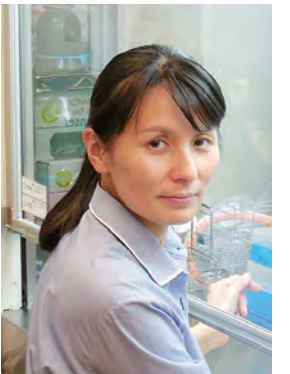


学生支援、高等教育、FD

### キーワード



●アクティブ・ラーニング  
●Tips 開発 ●オンライン授業



略歴／高知県生まれ。免疫学に興味を持ち、高知医科大学大学院医学研究科生命医学専攻博士課程に進学。修了後、2004年より、高知大学医学部附属動物実験施設（現在は総合研究センター動物実験施設）の助教に着任し、現在に至る。

## 研究と子育ての調和から、未来への挑戦力を鍛える

病原体など外からの攻撃に、私たちの体はどのように立ち向かっているのか。大学で初めて学んだ免疫学の面白さに夢中になり、そのまま研究者の道を選びました。現在は、実験動物を用いて抗体分泌細胞の機能解析をしています。実験データとにらめっこ、関連文献を読み漁り、仮説をたて、そしてまた検証実験という孤独な闘いではありますが、いろいろと意見交換

し合える研究者仲間がいることで、充実した研究生活を送ることができています。また、子育てのため時間のやりくりには四苦八苦していますが、女性研究者研究活動支援事業より研究支援員などの援助をしていただけることで、研究教育活動を滞りなく継続することができています。この場をお借りして、御礼を申し上げます。

### 【研究テーマ】

## 抗体分泌細胞の分泌制御メカニズムの解析

研究対象は、細胞の開口放出を制御する分子、Complexin (CPLX) です。この分子の働きに異常が生じると、全身的に情報伝達物質の分泌バランスが崩れ、生体恒常性維持機能にも影響が出てきます。私たちは、CPLX がリンパ球の B 細胞に発現することを明らかにしました。B 細胞は抗体を分泌することにより、体内に侵入してきた病原体の排除を行います。そこで、CPLX 欠損マウスの血清抗体濃度を測定してみると、IgM 抗体濃度が、野生型マウスと比較して非常に高いことが明らかとなりました。以上の結果より、CPLX は、B 細胞の抗体分泌制御にも重要な役割を持つと考えています。抗体は、分泌量が適切に調節されていれば免疫恒常性維持に働きますが、環境的要因および遺伝的要因により過剰になると、過度な炎症応答や自己免疫疾患など、重篤な疾患を引き起こす原因ともなります。CPLX の分子機能解析を通じて、抗体分泌異常がもたらす疾患の病態解明につなげたいと考えています。



### 研究領域



分子細胞生物学、免疫学、実験動物学

### キーワード



●抗体分泌細胞 ●自然抗体 ●細胞内膜融合  
●SNARE ●Complexin



略歴／臨床心理士・公認心理師・日本精神分析的自己心理学協会認定心理療法家。大阪大学人間科学部人間科学科卒業、大学院前期課程を経て、引き続き後期課程に進むも、アメリカの University of Missouri-Columbia の博士課程へ留学。1997年5月にカウンセリング心理学での Ph.D. を取得後帰国。1997年4月より鳴門教育大学に着任。2000年より同大学助教授、2008年より同大学教授。2014年には兵庫教育大学連合大学院学校教育研究科副研究科長、2016年には鳴門教育大学生徒指導支援センター長、2019年より同大学教育研究評議会評議員などに従事。

## たのしみを見つける！

研究というのは、計画の立案、実施、分析、執筆と、1人でコツコツやっていく過程です。たとえ、それが自分の興味ある内容だったとしても、私はそれだけではエネルギーは持続しないので、できるだけ楽しくやることをモットーにしています。仲間を募ったり、ワークショップを開催したり、結果がでたところで、いろいろな人から意見をもらったり。全国規模の学会やア

メリカやヨーロッパでの国際学会や様々な研究会で発表することも楽しみのひとつです。また、修士や博士課程の学生たちにも研究の楽しさを体験してもらいたいの、積極的に学会発表することを薦めています。そこから新たな出会いや研究の視点を得ることもあります。

## 【研究テーマ】

## 臨床心理学と性の多様性

専門は臨床心理学で、心理療法家の養成、心理支援の方法の探求、効果測定などを行っています。特に心理支援は精神分析的自己心理学の理論にのっとり実践や指導をしています。また、セクシュアル・ジェンダー・マイノリティの児童生徒学生への支援を専門に行っています。2011年にはSAG徳島という団体を立ち上げ、県内外のLGBTQ+の方々と共に様々な活動を行ってきました。ゼミには全国からセクシュアル・ジェンダー・マイノリティについての実践や研究をしたい学生が集まってきてくれます。そのほか、スクールカウンセリング、多文化間カウンセリング、オンラインゲーム、自己愛等に関する研究も行っており、幅広く研究しています。



▲セクシュアリティ・ジェンダーについて研究しているゼミ生と共に

## 研究領域



セクシュアル・ジェンダーマイノリティ、  
スクールカウンセリング、精神分析的自己心理学

## キーワード



●セクシュアリティ ●ジェンダー ●自己心理学  
●スクールカウンセリング ●多文化



略歴／兵庫県生まれ。お茶の水女子大学家政学部食物学科卒業。高等学校で家庭科教諭として勤務するうちに人間発達や家族関係についての関心が大きくなり、Purdue大学大学院消費者・家族科学研究科に進学して Family Studies を専攻。大阪市立大学大学院生活科学研究科人間福祉学後期博士課程単位取得退学。和歌山信愛女子短期大学講師、秋田大学助教授を経て、2005年9月より現職。

## 行き詰まったら息抜きをして原点回帰、そしてとっておきの楽しみを想い描く

社会科学分野で質問紙による調査を研究手法とする者にとっては、1回の調査でいかにして質のいいデータを収集するかが重要です。その達成は十分な文献レビューと研究の目的から構想する研究分析枠組みにかかっています。隣接分野の関連文献も取り込むと、情報の海で溺れそうになりますが、その時は必ずひと休み。数時間でも、1日でも、研究から離れて「そも

そもこの研究の目的は何だったっけ？」と原点回帰をします。後は「研究の木」の枝葉を整理して幹を太くすればよい。そして、私の研究におけるとっておきの楽しみ－研究者仲間である友人達と国内・国際学会で再会して語ること－を想い描きます。徐々に広がったネットワークに助けられて私の今があります。

## 【研究テーマ】

## ジェンダーイシューと予防教育としての家族生活教育（Family Life Education）

### 家庭科男女共修の父親への効果

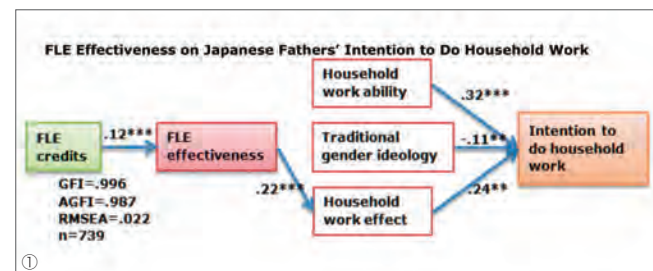
高等学校までの男女共修は1994年に実現しました。この研究では、さまざまな家庭科履修パターンが見られる32～37歳（2013年当時）の父親を対象に、家庭科履修の家事参加意欲に対する効果を調べました。

### 家事のダウンサイジング

共働き世帯が増加し続けているにも関わらず、現実には男性・父親の家事参加はあまり進んでいません。そこで、妻・夫の家事分担ではなく、家事そのものに着目し、家事のダウンサイジングの意識や実態を調査しています。

### 予防教育としての家族生活教育（Family Life Education）

家族支援に関わる分野の内、家族問題に予防的に関わる事ができるのは教育だけであることから、アメリカでは多くの大学で Family Life Education が授業科目として開設されています。最も多く使用されている教科書を翻訳して日本に紹介するとともに、成人向けの教育プログラムの開発に取り組んでいます。



▲①家庭科の履修単位数が多いほど家族・家庭生活への理解が深まり、家事の有効性を認識して家事意欲が高まる ②家族関係を楽しく学ぶために作製したマグネット教材 ③左から Family Life Education の原著と翻訳本、ワークショップ用のテキスト

## 研究領域



ジェンダー、家族関係学、  
家族生活教育、家族社会学

## キーワード



●ジェンダー ●家事 ●家族関係  
●仕事と生活の調和 ●家族生活教育

- 鳴門教育大学大学院学校教育研究科 准教授
- 消費者教育推進プロジェクトリーダー
- 消費者庁新未来創造戦略本部客員主任研究官
- 博士(社会科学)
- 専門社会調査士



略歴／神奈川県生まれ。お茶の水女子大学卒業後、コンピューターメーカー勤務を経て同大学博士課程に進学。東京理科大学助教、日本学術振興会特別研究員等を経て2016年より鳴門教育大学大学院に着任。

## 生活マネジメントの学びを深めながら

育児や老親のサポートをしながら仕事もし、博士論文を書いていたときは、連日悪夢にうなされるほどでした。しかし、あの大変さを乗り越えたことは自信や覚悟につながり、また時間の使い方や集中力を向上させることになったように思います。

両立の綱渡り経験を通じ、キャリアと子育ての問題は各々にとって人生の一大事であり、バラ

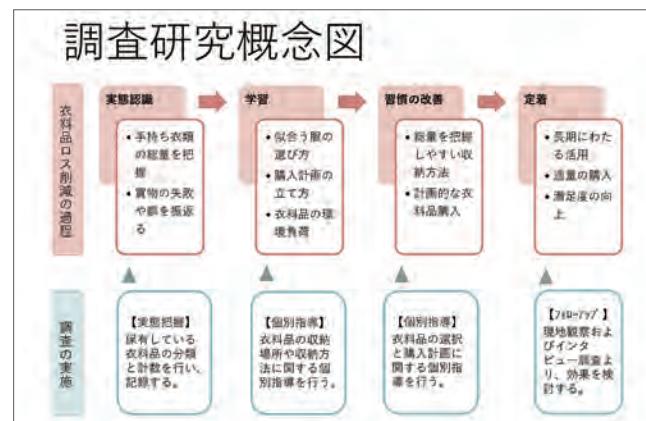
ンスの改善に社会全体で真剣に取り組むべきだとの思いが一段と強くなりました。また日常生活をダイレクトに向上させることができるのが、金銭や時間、空間の使い方、また消費生活の知識など生活マネジメントの学びです。自分自身が専門とする生活マネジメント領域の重要性もを日々実感しています。

## 【研究テーマ】

## 消費生活の変化を見据えた消費者教育

徳島県に設置された「消費者庁新未来創造オフィス」と連携しながら、教員を目指す学生とともに教育実践と研究を行っています。18歳成年を見据えた責任ある消費者の育成、持続可能な消費の実践、消費生活のデジタル化への対応が現在の主なテーマです。

ダイバーシティ推進共同研究プロジェクトでは「衣料品ロス削減」をテーマに、衣料品の購入、収納、管理の具体的知識が持続可能な消費行動に及ぼす影響を検討しています。方法は被検者がケーススタディの過程で、①実態認識、②学習、③習慣の改善、④定着という4段階を経て、衣料品ロスを削減できるようになることを目指すアクションリサーチです。衣料品ロス削減のために家庭での効果的な取組を明らかにし、目標達成に向けた有効な教育プログラムや教材の開発を行うのが最終目的です。



## 研究領域



生活経営、社会調査、消費者教育

## キーワード



- 生活資源管理
- マネジメント
- 持続可能性
- デジタル化
- 消費者教育

- 徳島県立工業技術センター 生活科学担当 研究係長



## 徳島県立工業技術センター

略歴／大阪府出身。京都市立芸術大学美術学部デザイン科卒業。1999年に徳島県庁に入庁。徳島県立工業技術センターで研究業務を行っている。

## 待てば海路の日和あり

高機能素材活用への取組を実施していますが、今回の事業ではご支援していただいている方々のご尽力により充実した研究環境となり、様々な知識も増え非常に感謝しています。

ライフイベントでは重度アレルギーを持った子の育児で頼れる親戚が周りにおらず、業務において思うように動けない時期もありましたが、ようやく近頃落ち着いて向き合えるようになっ

てきたように思います。研究職は自らが気づき必要と感じる既存にない価値に対して、様々な手法を検討し取り組み、実現・検証して成果を上げることで学術として主張することができ非常に意義のある職業だと考えています。

## 【研究テーマ】

## 木質資源と高機能素材を活用した家具の改良

炭素繊維強化プラスチック（CFRP）を利用した徳島県産杉のツールを試作しました。

CFRP、スギ、接着剤となるエポキシ樹脂などの各材料の強度試験で得られた結果から、まずはツールの脚部を片持ち梁としてみなし、JIS S 1203 家具-いす及びスツール 強度と耐久性の試験方法 座面及び背もたれの静的強度試験 試験区分4を想定し安全率3倍で直径を求めました。次にスギとCFRPの座面を複合材として複合測や組合せ梁として変位量を近似的に確認し、応力計算を行いました。そして体積や重量を最小化させることを目的として用いられるトポロジー最適化により軽量化した形状を求め、シミュレーションによる強度解析を行いました。

徳島県産木製品のイメージアップや知名度向上、利用促進を図りたいと考えています。



## 研究領域



デザイン、プロダクト

## キーワード



- 設計
- 高機能素材
- プロダクトデザイン



略歴／徳島県生まれ。徳島大学工学部応用化学科卒業。同大学院工学研究科に進み、1991年徳島県の技術吏員として採用された。食品（水産）分野を担当し2020年4月より現職。

## 自分らしく、日常にはない楽しさを見つけよう

興味のあることを掘り下げ、疑問に感じることに答えを探すことは、楽しいことです。このような作業はいろいろな場面で必要になりますが、これを職業としたときに「苦しさ」になってしまいうこともあります。しかし、仕事として研究者の道を選んだ人が得られる「楽しさ」は、日常では感じれないものだと思います。私たちの職場には、徳島県のために頑張る女性研究者が

います。理化学機器を使った分析技術でいろんな課題解決に役立つ人もいれば、企業と一緒に製品開発に取り組む人もいます。これから社会に出る皆さんには、どうか自分らしく、楽しさを見いだせる職場を見つけてほしいと思います。

### 【研究テーマ】

## ワカメの水溶性多糖に関する研究

### アルギン酸とは

アルギン酸は、ワカメなどの褐藻類に30%（乾重量）程度含まれる多糖類で、マンヌロン酸（M）あるいはグルロン酸（G）のポリマーブロック（MM、GG、MG）から構成されます。それぞれのポリマー構造の違いがゲル強度に影響を与え、MMブロックの比率が高いと、保水性が高く柔軟なゲルを形成します。

### ワカメ加工法と特徴

徳島県には、古くからの灰干し法をベースとした独特の乾燥品がありますが、2017年度には冷凍加工製品が販売開始されました。これは現在一般的に市販されている湯通し塩蔵品や乾燥品と比べ歯ごたえが良く、物性値も高いことがわかっています（図1）。

### 研究成果

ワカメ加工品はMMブロックの含有量が高く、特に冷凍加工では7割以上を占めていました（表1）。食物繊維の保水性は腸管吸収に影響するため、保水性の高い水溶性多糖類であるアルギン酸は、食感などの食味に加え機能性においても優れていることが期待されます。

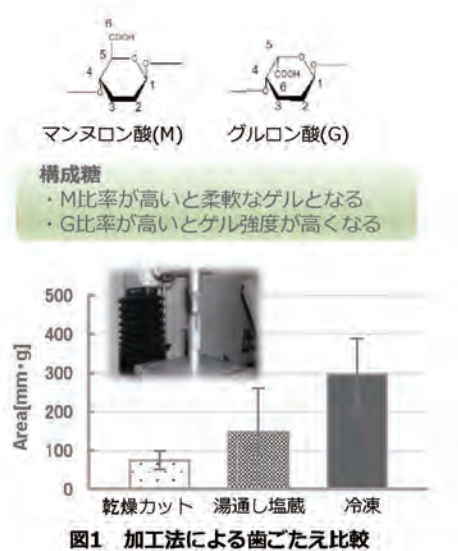


表1 粗アルギン酸ナトリウム中の各ブロックの含有量

| 加工法   | MG[mg/g] | MM[mg/g] | GG[mg/g] |
|-------|----------|----------|----------|
| 湯通し塩蔵 | 31.0     | 71.5     | 27.5     |
| 冷凍    | 30.5     | 125.0    | 20.0     |

### 研究領域



食品化学、食品分析、食品加工

### キーワード



●ワカメ ●アルギン酸 ●多糖  
●構成糖 ●冷凍



略歴／兵庫県生まれ、筑波大学大学院修士課程バイオシステム研究科卒業後、徳島県立果樹試験場でカンキツの育種、土壌肥料の研究業務に従事。徳島農業支援センターを経て2007年に果樹研究所へ異動、2013年より現職。

## 研究×仕事×生活

学生の時は、動物を相手に実験していましたが、就職したのは徳島県。「農業」、「果樹」、「農作業」、「育種」、「土壌肥料」慣れないことばかりで戸惑いました。体力がついていかず、辞めたいと思ったことも1度や2度ではありませんでした。育児を経験する中で、「食」と「健康」に興味を持つようになり、その後、徳島県と徳島大学が協定を結び、食品機能性の専門家と

共同研究が可能になったことから、研究テーマを「香酸カンキツの機能性研究」とし、分析、実験等を主に徳島大学で実施中です。ただ、土壌肥料関係の仕事、家庭との3足のわらじ(?)が上手にはきこなせていないのが現状ですが、研究は充実しています。

### 【研究テーマ】

## 徳島県産香酸カンキツの特長を活かした新規用途開発

徳島県は日本有数の香酸カンキツ産地であり、スタチは約5000t、ユズ約4000tの生産量でその半量以上が搾汁等の加工原料となります。果汁及び果皮は、飲料や香料として活用可能です。搾汁後の内皮及び果肉の活用方法を検討し、残さを出すことなく活用する方法を探索しています。活用方法の一つとして、内皮及び果肉の一次加工（ペースト等）製品及び食品を試作し嗜好性を調査しました。また、ペースト等に含まれる内容成分を分析、同定・定量し、培養細胞等を用いてそれらの持つ機能性について研究しています。



### 研究領域



食品科学、園芸学、植物栄養学、  
応用生物化学

### キーワード



●香酸カンキツ ●フラボノイド  
●ペースト ●脂肪細胞 ●加工食品



略歴／徳島県生まれ。香川大学農学部卒業。大阪大学大学院生命機能研究科にて修士号取得後、徳島県庁に入庁。

### 周りの人への感謝を大切に

大学では主にマウスを用いた遺伝学を専攻しており、入庁して初めて果樹研究の世界に足を踏み入れました。植物の知識がほとんどなく配属当初は不安でしたが、幸いにも人に恵まれ、温かいご指導をいただきながら何とか1年乗り越えることができました。2年目以降はダイバーシティ事業の支援を受け、自ら設計した研究テーマに取り組んでいます。うまくいかないこと

も多い中、新しい成果が出る度に嬉しく、毎日楽しいです。それもこれも、上司や同僚、そして家族の協力があったからこそ。研究は1人で行う作業が多いですが、決して1人だけでできるものではありません。周りの人に助けられていることを忘れず、今後は私も周りの人を助けられるよう、より一層努力していきたいと思います。

### 【研究テーマ】

## DNA マーカーを用いた香酸カンキツ品種識別技術の確立

### 研究の内容および成果

近年、国内で育成された優良品種の海外流出や登録品種の偽装表示が問題となっており、育成者権の保護や消費者に対する食の安心・安全を確保するため、簡易で迅速に品種識別が可能なDNA品種識別技術の開発が求められています。これまで、主要な生食用カンキツについてはCAPSマーカーを用いた品種識別技術が開発されていましたが、香酸カンキツについては報告がありませんでした。そこで私は、国内流通量の多い香酸カンキツを対象にCAPS遺伝子解析を行い、生食用カンキツと香酸カンキツを合わせた35品種の識別を可能とする技術を確認しました。

### 今後の課題

2019年度のダイバーシティ事業により、葉から抽出したDNAを用いた品種識別技術を確認することができましたが、香酸カンキツは加工品としての利用が多いため、現在は酢やドライフルーツなどの加工品からでも品種識別が可能な技術の開発に取り組んでいます。



▲①徳島県を代表する香酸カンキツ「スダチ」 ②果皮からのDNA抽出 ③香酸カンキツ加工品の品種識別実験

### 研究領域



園芸科学、遺伝育種科学

### キーワード



●香酸カンキツ ●品種識別  
●DNAマーカー



### 待てば海路の日和あり

入庁当初より、研究職を希望しつつ、18年が経過したところでようやく、研究職に配属となりました。子育ても、一段落とまではいかないまでも、そろそろと手を離しても大丈夫な頃。この時期に研究職に配属されたことは、ある意味幸いだったのかとも思います。行政職と研究職では、仕事の組み立て方が全く違うと感じていて、戸惑いながらの日々ですが、ベテランの上

席始め職場の皆さんや、日々成長する子どもたちに助けられています。データをコツコツととる作業は忍耐が必要ですが、それをグラフ化し、思いどおりの結果となったり、または、思いがけない結果となったりした時におもしろいと感じます。

略歴／徳島県生まれ。宇都宮大学農学部卒業。京都大学木質科学研究所にて修士号取得後、徳島県庁に入庁。森林整備課に配属。その後、治山、林務、団体検査等々、研究職への憧れを持ちつつ農林行政の業務を担当。2018年4月より当センターに配属され、森林資源担当の研究職となる。

### 【研究テーマ】

## 高機能・高品質アラゲキクラゲ栽培技術の開発

広葉樹を培地基材として栽培することが一般的なアラゲキクラゲについて、スギやサトウキビの搾りかすであるバガスを代替として使用し、栽培することが可能か評価するとともに、それぞれの培地から収穫した子実体について成分分析等を行い、高付加価値販売につながる子実体の栽培培地を探っています。これまでの研究では、バガス培地の子実体発生量は広葉樹培地よりも多く、スギ培地からの長径7cm以上の子実体発生量は広葉樹培地と同等でした。このことから、バガスとスギでアラゲキクラゲを栽培することは十分可能と考えられました。また、βグルカン量はバガス培地>広葉樹培地>スギ培地の順に多く、味覚センサーによる味比較では、スギ培地が広葉樹培地に比べてやや旨味が多いことが示されました。



▲①柿の木に発生したキクラゲ ②スギおが粉 ③バガスチップ ④バガス培地発生状況 ⑤スギ培地発生状況

### 研究領域



シイタケ・アラゲキクラゲの栽培技術の確立

### キーワード



●シイタケ ●アラゲキクラゲ  
●菌床栽培 ●培養温度 ●培地基材



## 四国発信！ ダイバーシティ 研究環境調和推進 プロジェクト

### 編集後記

2020年は、全世界が新型コロナウイルス感染症に翻弄された1年でした。そして今もなおその状況は改善されことなく感染は拡大し、さまざまな分野／領域に多大な影響を与えています。その一方で、新たな生活様式の中、各種イベントは無観客ライブ配信やオンライン開催となり、会議は出張の必要がないWeb会議等を取り入れた結果、コスト削減だけでなく時間の捻出につながり、学びの拡大と論文投稿数の増加も報告されています。このような状況下においてこのたび、四国発信！ダイバーシティ研究環境調和推進プロジェクト広報誌を発刊することといたしました。

1部では、平成30年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」～四国発信！ダイバーシティ研究環境調和推進プロジェクト～の事業概要について紹介させていただきました。このテーマにある『調和』は、あらゆる状況下において重要なキーワードであると考えています。本プロジェクトが、女性研究者が充実した生活・人生を送るための方策を得てキャリアに対して意欲を持ちあらゆる状況において『調和』を図る力を持つことで、女性自身が輝き豊かな社会を形成していくことの一助になればと願っております。

2部では、四国地域のロールモデルとして、上記プロジェクトにおけるダイバーシティ推進共同研究に採択された30名の女性代表研究者を紹介させていただきました。本共同研究では、異分野横断研究が推進され、若手研究者が研究を積める研究コミュニティの形成につながり、優れた研究成果の持続的創出が期待されます。また、これから研究者を目指す方たちへの研究と生活の調和に向けての示唆を与えてくれます。

新型コロナウイルス感染症の影響により世界が大きく変化しようとしている今、ダイバーシティ&インクルージョンをさらに推進し、多様な力を結集して新たな調和環境構築に向けて歩んでいきましょう。

2021年3月 徳島大学AWAサポートセンター長 葉久真理



## 四国ダイバーシティ推進委員会 連携9機関リスト



**徳島大学 AWAサポートセンター**  
〒770-8503  
徳島県徳島市蔵本町3-18-15  
Tel. 088-633-7538  
<http://www.awasapo.tokushima-u.ac.jp/>  
Mail. awa@tokushima-u.ac.jp



**徳島県立工業技術センター**  
〒770-8021  
徳島県徳島市雑賀町西開11-2  
Tel.088-669-4711  
<https://www.itc.pref.tokushima.jp/>  
Mail. kikaku06@itc.pref.tokushima.jp



**香川大学 男女共同参画推進室**  
〒760-8521  
香川県高松市幸町1番1号  
Tel.087-832-1055  
<http://www.kagawa-u.ac.jp/sankaku/index.html>  
Mail. sankaku-alpaca-h@kagawa-u.ac.jp



**徳島県立農林水産総合技術支援センター**  
〒779-3233  
徳島県名西郡石井町石井字石井1660  
Tel.088-674-1660  
<https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/>  
Mail. keieikenkyuuka@pref.tokushima.jp



**愛媛大学 ダイバーシティ推進本部  
女性未来育成センター**  
〒790-8577  
愛媛県松山市道後樋又10番13号  
Tel.089-927-9032  
<http://hime.adm.ehime-u.ac.jp/>  
Mail. hime@stu.ehime-u.ac.jp



**アオイ電子株式会社**  
〒761-8014  
香川県高松市香西南町455-1  
Tel.087-882-1131  
<http://www.aoi-electronics.co.jp/index.html>  
Mail. iaioi010@aoi-electronics.co.jp



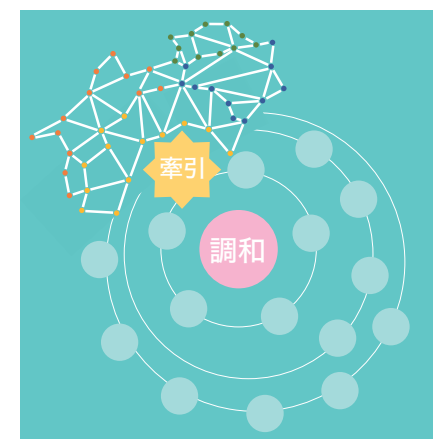
**高知大学 男女共同参画推進室  
(しあわせぶたん)**  
〒780-8520  
高知県高知市曙町2丁目5-1  
Tel.088-888-8022  
<https://www.kochi-u.ac.jp/sankaku/>  
Mail. sankaku@kochi-u.ac.jp



**協和株式会社**  
〒569-0062  
大阪府高槻市下田部町1丁目1番5号  
Tel.072-685-1155  
<https://www.kyowajpn.co.jp/>  
Mail. hyponica@kyowajpn.co.jp



**鳴門教育大学 男女共同参画推進室**  
〒772-8502  
徳島県鳴門市鳴門町高島字中島748番地  
Tel.088-678-6000  
<http://www.naruto-u.ac.jp/>  
Mail. diversity@naruto-u.ac.jp



本誌は、平成30年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」～四国発信！ダイバーシティ研究環境調和推進プロジェクト～の広報誌として作成しました。また、掲載している情報は、2021年2月10日現在のもので、本誌掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。



牽引

調和



2021年3月 発行

[発行]

徳島大学 AWA サポートセンター

〒770-8503 徳島県徳島市蔵本町 3-18-15

Tel.088-633-7538 Fax.088-633-7572

<http://www.awasapo.tokushima-u.ac.jp/>

Mail. [awa@tokushima-u.ac.jp](mailto:awa@tokushima-u.ac.jp)